



THE 88th ANNUAL CONCERT



DOSHISHA GLEE CLUB

## Doshisha College Song

One purpose Doshisha, thy name  
Doth signify one lofty aim  
To train thy sons in heart and hand  
To live for God and Native Land  
Dear Alma Mater sons of thine  
Shall be as branches to the vine.  
Tho' through the world we wander far and wide,  
Still in our hearts thy precepts shall abide

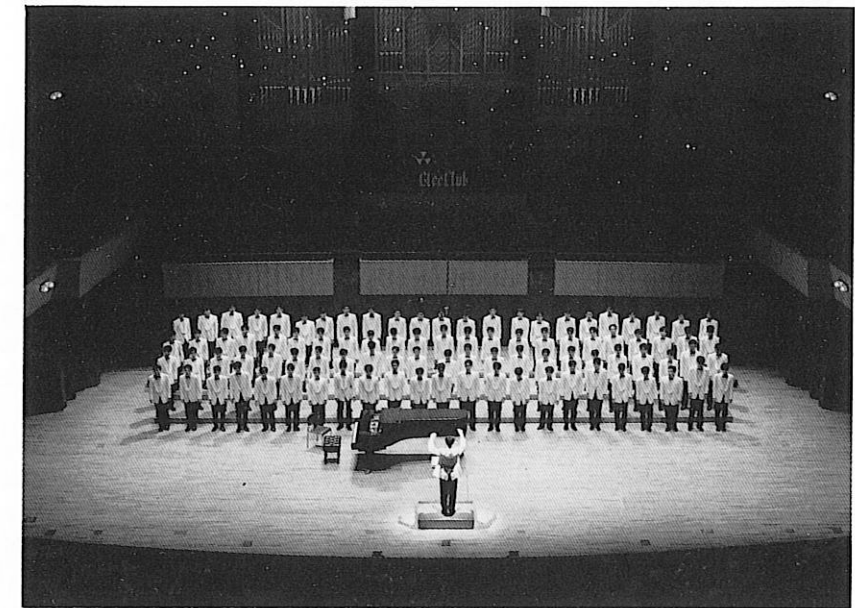
Still broader than our land of birth  
We've learned the oneness of our Earth  
Still higher than selflove we find  
The love and service of mankind  
Dear Alma Mater sons of thine  
Would strive to live the life divina  
That we may with increasing years have stood  
For God, for Doshisha and Brotherhood.



## 第 88 回

# 同志社グリークラブ定期演奏会

1992年12月19日(土) ザ・シンフォニーホール



## 御 挨拶

本日はご多忙の折、私達同志社グリークラブ第88回定期演奏会にお越し下さいまして誠にありがとうございます。

私達同志社グリークラブを30年近くにわたって御指導して下さいました福永陽一郎先生が天に召されてから3年が経ち、福永先生に直接御指導いただいた部員は今年の四回生で最後となります。先生のおっしゃられた「お客様と一体となった音楽づくり」は、私達部員の大きな目標であり、日頃の練習の精神的な支えとなっています。日常生活に埋もれ、ただ無為に時を過ごしてしまいがちな中、今後も私達は先生の教えを守り、純粋に音楽を愛し、より素晴らしい音楽を創造できるように日々努力して参りたいと思っています。

今春の欧州演奏旅行では、合唱を通じて数多くの文化交流をはかることが出来、音楽的に大きく成長いたしました。中でも西洋音楽の源泉である教会での演奏体験は同志社グリーの貴重な財産となることでしょう。

今宵、一年間の総決算であるステージで、私達の創り出す音楽が、皆様との間に尽きる事のない感動を生むことが出来たら、これに優る喜びはございません。

最後になりましたが、諸先生方、諸先輩方、本演奏会の開催に御尽力下さいました関係各位に部員を代表して厚く御礼申し上げます。

同志社グリークラブ幹事長 内桶 貴志





同志社総長  
松山 義則

本日同志社グリークラブ定期演奏会が、音楽を愛する多くの方々のご出席を得て開催されますことを心からうれしく存じます。

同志社は1875年新島襄が山本覚馬とJ・デービスの助けを受けて祈りのうちに創立された、キリスト教主義教育を基本とする歴史と伝統をもつ学園であります。同志社創立までには、幾重もの困難が先生の前にたちはだかりましたが、深い信仰とあふれる情熱にささえられた先生は、苦勞のすえ、それらの障害をのりこえられたのであります。わが国に一つのキリスト教主義大学を創設するというかれの願いは多くの人びとによって受け継がれ、100年を越える歳月にわたって、自治、自由、良心に生きる若き人びとの集うところとなりました。

同志社グリークラブも本年創立88周年を迎えました輝かしい伝統をもつ学生合唱団であります。グリークラブは、献身的な諸先輩の努力によって築きあげられました。団員の諸君はこのすばらしい伝統を受け継ぎ、さらなる発展を期して日々研鑽を積み皆さまのあたたかいご支援をいただいておりますことは大きなほこりと存じます。

今宵は、団員の心を込めた演奏に心耳を傾けていただき、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。



同志社グリークラブ顧問  
澁谷 昭彦

プログラムのメッセージの中でグリークラブの紹介をするとき、必ず、「……演奏活動は、広く海外にも及び……」と書いてきた。事実、過去20年間に、アメリカ(1974)、中華人民共和国(1979)、ヨーロッパ(1983、1986、1989、1992)と6度の海外演奏旅行を繰り返し行なってきた。これらの海外演奏旅行により、グリーが一段と成長してきたことは否めない。

私は、グリーメンの在学期間中に、一度は海外演奏旅行の機会を与えたいと考えている。そのためには、3年毎に海外演奏旅行の計画が順調になされなければならない。しかしながら、これは、言うは易く行なうは難しで、これまでうまく行っているのが不思議なぐらいである。幸運なことに、来年9月にアメリカ行きの話がもちあがっている。グリーOBのクローバークラブが中心となり、同志社の創立者、新島襄生誕150周年を記念し、新島の母校、同志社のルーツであるアモスト大学で演奏会を開く。また、世界の檜舞台であるニューヨークのカーネギー・ホール、ボストン・シンフォニーホールでも歌うという。

グリーの現役は、OBから一緒に行かないかと誘われている。願ってもない話であり、これに乗らない手はない。OB・現役が一丸となって、ぜひこの画期的なイベントを成功させるべきだと思う。ボストン近辺には、新島襄ゆかりの地が多く、120年前の新島の足跡を辿ることにより、同志社創立の原点に触れることができる。新島襄の目ざした同志社教育、すなわち、キリスト教主義にもとづく良心教育、知、徳、体、三位一体の全人教育、自由主義、国際主義の伝統の源がここにあることを、さらに深く認識する機会となることを確信している。

今一度、同志社、そして、同志社という学園にある学生合唱団「グリークラブ」の拠って立つところに思いをはせ、自己確認、自己主張、アイデンティティーのあくなき追求と明確な掲示の場であるこの定期演奏会を、さらに意義あるものとならしめることを切に願っている。

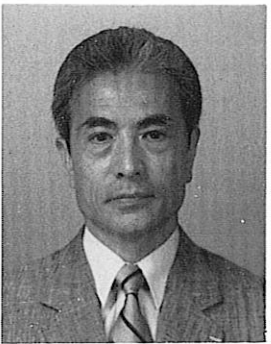
#### “若さのハーモニー”

これはまさに蓄積されたエネルギーのぶつかり合いを感じさせるもの、又、若さゆえの未成熟さをも感じさせるものと言えましょうか。

今回は88回目の定期演奏会と聞き、この歴史と伝統の重さをひしひしと身に感じます。同志社グリークラブOB会の目的の一つが、グリークラブの援助、発展に寄与することにあるのは言うまでもありませんが、一旦社会人になりますと、仲々思ったような活動を行うことが出来ず、現役諸君と顔を合わせる度に、力の無さを嘆いている次第です。

平常、研鑽を積み重ねているその成果を十二分に発揮することが出来ますかどうか、勿論OBとしての身びいきではありますが、万感をこめてエールを贈るとともに、久しぶりに現役に戻った気持ちで楽しみたいと思います。

今宵、万障お繰り合わせの上ご来席下さいました皆様、どうか暖かいお心で見守って頂き、そしてご指導ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。



同志社グリークラブ  
OB会副会長  
橘 守

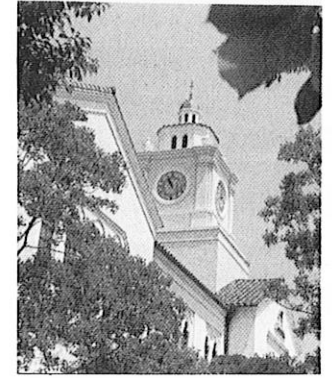
## 関西学院グリークラブ

今年で88回目をむかえる同志社グリークラブ定期演奏会の開催を、心よりお慶び申し上げます。

今年の同志社グリークラブの皆様への活動には、目をみはるものがあったのではないのでしょうか。春季に行われた欧州演奏旅行を皮切りに、第41回東西四連、第19回関西六連と、それぞれの大きな演奏会におけるグリークラブのそのダイナミックな演奏に我々は、只々圧倒されるのみでした。

今回のこの演奏会には、見どころが多くあります。「アメリカの男声合唱曲」と「R. シュトラウス歌曲集」が、本山先生、山下先生、久邇先生、それぞれ3人の先生方によってどのように料理されるかということが、まず一つ。そして踊る学生指揮者、村上哲夫さんが、長田先生を伴奏にむかえて関西六連で好評を博した「Man of La Mancha」の再演なども、見どころでしょう。

本日の定期演奏会は、きっとすべてのお客様に感動をお届けすることでしょう。私共、関西学院グリークラブ部員一同、本日の演奏に胸を高なせつつ、演奏会の御成功を心よりお祈り申し上げます。



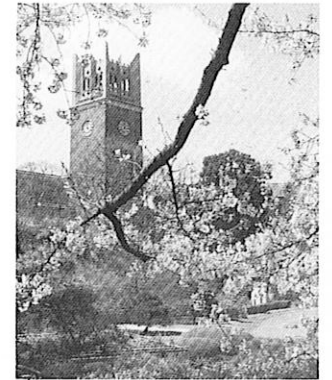
## 早稲田大学グリークラブ

第88回定期演奏会の御開催を部員一同心よりお祝い申し上げます。

東西四連の時は大変お世話になりました。年にたった一度でございますが、四連において皆様と音楽を共にすることができましたことはこのうえない喜びであります。そしてそのたった一度の機会に得るもの、感じるものは限りなく大きく、また、皆様との結びつきもますます強まったことを感じました。

我々が、皆様と遠く離れた東京において練習、もしくは演奏している時でもさえ同グリーを意識せざるをえないほど我々にとって皆様の存在は大きく、それによって我々は奮起させられます。皆様が見ていないところでも気をぬくことができません。

ああ、聞こえてくる。同グリーの魂の叫びが、そして聴衆の割れんばかりの拍手とブラボーの嵐が。今宵の演奏会の御成功と皆様の一層の御発展を心よりお祈り申し上げます。



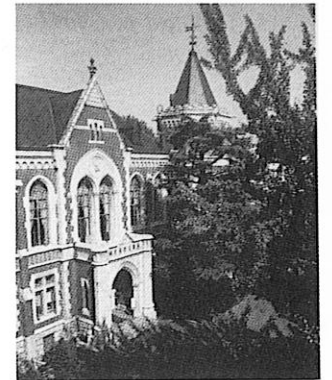
## 慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団

同志社グリークラブの皆様、第88回定期演奏会の御開催を部員一同心よりお祝い申し上げます。

皆様の音楽に対する崇高な理念と真摯な取り組みは私達に常に刺激と興奮を与え、音楽に関わる者としての喜びを感じさせてくれて止みません。その重厚なハーモニー、その迫力に満ちた歌声が私達を心から楽しませてくれる…。日頃の激しい練習と多大なる努力に裏打ちされた皆様のステージは、今夜も熱く、聴く者の心を深く捕えて離さない事でしょう。

春の欧州演奏旅行も大成功を収められたそうで、皆様の演奏が世界的である事を改めて痛感しました。そのような皆様と毎年6月に東西四連で共に歌い、音楽を通じ音楽を越えて心からの交流が行える私達を、私達は幸せであり誇らしく思っております。今夜は皆様の重厚でパワー溢れる歌声が寒い日々が続く師走の空にこだまして、明日の私達の定期演奏会へのエールとなって東京まで届いて来る事を部員一同切に願って止みません。

最後になりましたが、本日の演奏会の御成功と皆様の今後益々の御発展、御活躍を心よりお祈り申し上げます。



## PROGRAM

### DOSHISHA COLLEGE SONG

作詩 W. M. Vories  
作曲 Carl Wihelm

### STAGE 1

#### 「日本のこころ（日本叙情歌曲集）」

あわて床屋  
青蛙  
砂山  
村祭り  
里の秋  
この道

作詩 北原白秋他  
作曲 山田耕筰他  
編曲 福永陽一郎  
指揮 村上哲夫

### STAGE 2

#### 「20世紀アメリカの男声合唱曲」

～ アーロン・コープランドとサミュエル・バーバー ～

SIMPLE GIFTS  
I BOUGHT ME A CAT  
THE LITTLE HORSES  
CHING-A-RING CHAW  
A Stopwatch and an Ordnance Map  
ZION'S WALLS

作曲 Aaron Copland, Samuel Barber  
指揮 本山秀毅  
ピアノ 長田育忠  
ティンパニ 村上博美

### STAGE 3

#### Musical 「Man of La Mancha (ラ・マンチャの男)」

Man of La Mancha  
(I, Don Quixote)  
Dulcinea  
Little Bird, Little Bird  
Golden Helmet of Mambrino  
The Impossible Dream

作詩 Joe Darion  
作曲 Mitch Leigh  
編曲 福永陽一郎  
指揮 村上哲夫  
ピアノ 長田育忠

### STAGE 4

#### 「R・シュトラウス歌曲集」

ALLERSEELEN  
HEIMLICHE AUFFORDERUNG  
TRAUM DURCH DIE DÄMMERUNG  
WIEGENLIED  
ICH TRAGE MEINE MINNE  
CÄCILIE

作曲 Richard Strauss  
編曲 福永陽一郎  
指揮 山下一史  
ピアノ 久邇之宜



# Stage 1

## 「日本のこころ（日本叙情歌曲集）」



「(明治のはじめ、) 明治政府が学童に、日本の伝統音楽を教えることを望まなかった。また当時の圧倒的な西洋文物の崇拜思想もあって、高尚な音楽は西洋、低俗なのは伝統音楽と、いう公式ができていた。それで当時の才能ある音楽家の多くが西洋音楽を学び、その成果を最初は学校教育の場で、後になると、民間の音楽企業、あるいはNHKなど放送を通じて発表した。

しかし彼ら近代日本を代表する音楽家たちにしても、日本固有の音を忘れたわけではなかったし、また彼らの曲に伴う歌詞を作った詩人たちも、日本の叙情を棄てたりはしなかった。その結果、西洋音楽の骨格を借りながら、日本の伝統的心情を歌った、多くの傑作が作られた。」(「日本のうた、ふるさとのうた」全国実行委員会委員長、三浦朱門氏の文より抜粋)

明治維新にはじまる日本の近代化は日本文化の西洋化を意味し、西洋的なものが好まれ、尊重され、多く受け入れられた。第二次大戦後、高度経済成長期にその勢いは急激に加速し、現在の情報化社会に至っては、世界のありとあらゆるジャンルの音楽が楽しめるようになった。

日本における西洋音楽の発展に貢献した人のひとりとして、山田耕柝(1889~1965)をあげることができる。山田耕柝は東京音楽学校声楽科卒業後、音楽芸術分野では滝廉太郎について二人めの留学をはたし、四年間ベルリンの王立高等音楽学校で学ぶ。帰国後は日本を代表する作曲家、指揮者への道を歩み、日本初の管弦楽団を組織するなど日本の洋楽の発展につくす一方、歌曲、オペラ、交響曲など約千六百曲に及ぶ作曲を行い、そのうち歌曲だけでも七百曲近くあり、この数はシューベルトをも上回っている。

作曲家としては、他にも滝廉太郎、中山晋平、本居長世、中田喜直らの名をあげることができるが、特筆すべきは、西洋音楽の枠組の中に「日本のこころ」とも言える日本の伝統的心情を織り込んだ点にあり、日本文化と西洋音楽の融合、調和によって生み出された多くの作品は、誰もが持っている日本人としての感情と風土への想いと合致して自然と日本じゅうに広まり、親から子へと歌い継がれてきた。

現在、私達は東京をはじめ大都市中心の情報の中で生活し、メディアの発達によって均一化された文化を強いられている。また国際化の波は、私達から日本固有の文化や心情を急速に取り去ろうとしている。歌い継がれた日本のうたも、日本人の心から忘れ去られようとしている。事実、今日これらの曲を歌う団員の中にも、そのほとんどを知らずにいたという者が割に存在し、驚かされたというエピソードもある。

日本の合唱団はもっと日本の良い歌を歌うべきだと、私は思う。諸外国のオーケストラや合唱団がそうであるように、日本もまた固有の文化を大切に、「日本のこころ」を歌い継いでいきたい。誰もがまだ日本人としての心情を失っていないはずだから。



### 指揮者 村上哲夫

1971年兵庫県に生まれ、5才の頃からピアノを習い始める。以来音楽と共に時を過ごす、何故か高校時代には山岳部に所属。同志社大学入学後、グリーククラブに入部し、音楽活動の域を合唱へと広げる。今年1月、第61代学生指揮者に選出され、2月の四回生の送別演奏会において指揮者デビューを果たす。2月から3月にかけての第4回欧州演奏旅行では「日本民謡集」を指揮し、各地で絶賛を受ける。

先の関西六連での、ダイナミックな指揮ぶりと、大きな顔と、縄文人のようなアゴは、まだ皆様の記憶にも新しいことでしょう。

今宵は、「あたたな(チラシ参照)」にそっと愛を伝えるべく、学生指揮者として最期のステージに挑みます。乞う御期待!!

### あわて床屋

春は早うから 川辺の岸に  
かみが店出し 床屋でござる  
ちよっきん ちよっきん ちよっきん  
ちよっきん ちよっきん ちよっきん  
こがにぶつぶつ しゃぼんを溶かし  
おやし自慢で はさみを鳴らす  
ちよっきん ちよっきん ちよっきん  
ちよっきん ちよっきん ちよっきん  
そこへうさぎが お客にござる  
どうぞ急いで 髪刈っておくれ  
ちよっきん ちよっきん ちよっきん  
ちよっきん ちよっきん ちよっきん  
うさぎア気がせく かにアあわてるし  
早く早くと 客ア詰めこむし  
ちよっきん ちよっきん ちよっきん  
ちよっきん ちよっきん ちよっきん  
邪魔なお耳は びよびよこするし  
そこであわてて ちよんと切りおとす  
ちよっきん ちよっきん ちよっきん  
ちよっきん ちよっきん ちよっきん  
うさぎア怒るし かにア恥よかくし  
しかたなくなく 穴へと逃げる  
ちよっきん ちよっきん ちよっきん  
ちよっきん ちよっきん ちよっきん  
しかたなくなく 穴へと逃げる  
ちよっきん ちよっきん ちよっきん  
ちよっきん ちよっきん ちよっきん

### 青蛙

流そ、流そ  
柳の葉で流そ  
出水のあとの  
雨がへる  
背なかは青い  
お腹は白い  
あっち 向いちゃ、くるり、  
こっち 向いちゃ、くるり、  
目、ばち、ばち  
流そ、流そ、  
柳の葉で、流そ。  
砂山  
海は荒海  
向こうは佐渡よ  
すずめ啼け啼け  
もう日は暮れた  
みんな呼べ呼べ  
お星さま出たぞ  
暮れりや砂山  
海鳴りばかり  
すずめちりぢり  
また風荒れる

### 村祭り

みんなちりぢり  
もう誰も見えぬ  
かえろかえろよ  
菜葉原わけて  
すずめさよなら  
さよならあした  
海よさよなら  
さよならあした  
村の鎮守の神様の  
今日はめでたにお祭り日  
ドンドンヒヤララ ドンヒヤララ  
ドンドンヒヤララ ドンヒヤララ  
朝から聞こえる笛太鼓  
今年も豊年万作で  
村は総出の大祭  
ドンドンヒヤララ ドンヒヤララ  
ドンドンヒヤララ ドンヒヤララ  
夜まで賑わう宮の森  
治まる御代に神様の  
めぐみたたえる村祭  
ドンドンヒヤララ ドンヒヤララ  
ドンドンヒヤララ ドンヒヤララ  
聞いても心が勇み立つ

### この道

静かな静かな 里の秋  
お背戸に木の実の落ちる夜は  
ああ 母さんとただ二人  
栗の実にてます いろりばた  
明るい 明るい星の空  
鳴き鳴き夜鳴の 渡る夜は  
ああ 父さんのあの笑顔  
栗の実 食べては 思い出す  
この道は いつか来た道  
ああ そうだよ  
あかしやの花が 咲いてる  
あの丘は いつか見た丘  
ああ そうだよ  
ほら 白い時計台だよ  
この道は いつか来た道  
ああ そうだよ  
おかあさまと 馬車で行ったよ  
あの雲も いつか見た雲  
ああ そうだよ  
山査子の 枝も垂れてる

## Stage 2

### 「20世紀アメリカの男性合唱曲」

#### 解説

音楽的見地から見て、アメリカ合衆国は、20世紀になって初めて成熟したへと言える。合唱音楽において伝統的なものから創造的なものまで、それまでのヨーロッパ音楽の枠組みからしだいに脱皮し、独自の様式を確立して来たのである。



#### 作曲家 アーロン・コーブラント (1900~1990)

コーブラントは、1900年ニューヨークのブルックリンにユダヤ系のロシア人の両親の第五子として生まれた。5歳のときに作曲を志し、翌年ルビン・ゴールドマークに和声学を師事した。

1921年から24年にかけてフランスに留学し、ナディア・ブランジェ女史に師事し、認められ、渡米の際、「オルガンと管弦楽のための交響曲」(1924)を紹介、初演したことにより、アメリカ楽壇から注目されるようになった。バレエ曲「アパラチアの春」は1945年度のピューリッツァー賞とニューヨーク音楽批評家賞を与えられ、アメリカ現代音楽指導者の一人と目されるようになった。彼は、声楽曲よりは器楽曲の作曲家として有名であるが、合唱作品にも優れたものを残しており、代表作品には「In the beginning (始めに)」と題された、旧約聖書創成紀にテーマをとった無伴奏合唱曲がある。本日演奏するものは、「Old American Songs」といわれるものである。彼は、アメリカフォークソングにヒントを得た音楽を数多く残しているが、これは古くから伝わるアメリカの旋律をもとに、合唱に編曲したものである。簡素な中に、彼がジャズに傾倒していたことを伺わせるように、旋律やリズム、構造上の強勢(ストレス)が効果的に生き生きと表現されている。



#### 作曲家 サミュエル・バーバー (1910~1982)

サミュエル・バーバーは現代アメリカの作曲家の中では最も評価の高い一人である。14歳から21歳まで、フィラデルフィアのカーティス音楽学校に学び、指揮をフリッツ・ライナー、作曲をロザレオ・スカレノに学ぶ。1935年ピューリッツァー賞、グッゲンハイム奨学金、アメリカ・ローマ賞などを得て、ローマのアメリカン・アカデミーで2年間学んだ。自己の音楽に対する厳しい姿勢を崩さない彼の合唱小品には、洗練と職人気質が感じられる。

有名な自分自身の作品「弦楽のためのアゲージオ」を編曲した「Agnus Dei」や、「Re-incarnation (輪廻)」などは優れた合唱曲として広く知られている。

彼を合唱作曲家として有名にしたのがこの「A Stopwatch and an Ordnance Map (ストップウォッチと軍用地図)」である。スティープン・スペンダーの詩につけたこの曲は、1940年の作品で、男声合唱とケトルドラムのための曲である。(そのほかにホルン、トロンボーンなどが加わる場合がある。)たいへんドラマティックでありながら抑制のきいた旋律、リズム、和声が風刺のきいた歌詞の精神を高めるのに役立っている。

半音階を用いながらレガートに和音が移り変わるところなどは、ヨーロッパ音楽にはみられない独自の色彩感覚が感じられる。

#### I. Simple Gifts

Tis the gifts to be simple Tis the gifts to be free  
Tis the gifts to come down where you ought to be,

And when we find ourselves in the place just right  
Twill be in the valley of love and delight

When true simplicity is gained  
To bow and to bend we shan't be ashamed  
To turn, turn will be our delight  
Till by turning, turning we come round right

#### II. I bought me a cat

I bought me a cat  
My cat pleased me  
I fed my cat under yonder tree  
My cat says fiddle eye fee

I bought me a duck  
My duck pleased me  
I fed my duck under yonder tree  
My duck says "Quaa, quaa"

I bought me a goose  
My goose pleased me  
I fed my goose under yonder tree  
My goose says "Quaw, quaw"

I bought me a hen  
My hen pleased me  
I fed my hen under yonder tree  
My hen says "Shim - my shack, shim - my shack"

I bought me a pig  
My pig pleased me  
I fed my pig under yonder tree  
My pig say "Grif - fey, grif - fey"

I bought me a horse  
My horse pleased me  
I fed my horse under yonder tree  
My horse says "Neigh, neigh"

I bought me a wife  
My wife pleased me  
I fed my wife under yonder tree  
My wife says "Ho - ney, ho - ney"

#### III. The Little Horses

Hush you bye,  
Don't you cry,  
Go to sleepy little baby.  
When you wake,  
You shall have,  
All the pretty little horses.  
Blacks and bays,  
Dapples and grays,  
Coach and six - a little horses.  
Hush you bye,  
Don't you cry,  
Go to sleepy little baby.  
When you wake,  
You'll have your cake,  
And all the pretty little horses.  
A brown and a gray,  
And a black and a bay,  
And a coach and a six a little horses.  
Hush you bye,  
Don't you cry,  
Oh you pretty little baby.

#### IV. Ching - a - ring Chaw

Ching - a - ring - a - ring ching ching  
Ho - a - ding a - ding kum larkee  
Ching - a - ring - a - ring ching ching  
Ho - a - ding kum larkee

Brothers gather round  
Listen to this story  
'Bout the promised land  
An' the promised glory

You don't need to fear  
If you have no money  
You don't need none there  
To buy you milk and honey

There you'll ride in style  
Coach with four white horses  
There the evening meal  
Has one two three four courses

Nights we will dance  
To the harp and fiddle  
Waltz and jig and prance  
"Cast off down the middle"

When the mornin' come  
All in ground and splendor  
Stand out in the sun  
And hear the holy thunder

Brothers hear me out  
The promised land's a comin'  
Dance and sing and shout  
I hear them harps a strumin'

#### V. A stopwatch and an Ordnance Map

A stopwatch and an ordnance map.  
At five a man fell to the ground  
And the watch flew off his wrist,  
Like a moon struck from the earth  
Marking a blank time that stares  
On the tides of change beneath.  
All under the olive trees,  
All under the olive trees.

A stopwatch and an Ordnance map.  
He stayed faithfully in that place  
From his living comrade split  
By dividers of the bullet,  
That opened wide the distances  
Of his final loneliness.  
All under the olive trees,  
All under the olive trees.

A stopwatch and an Ordnance map.  
And the bones are fixed at five  
Under the moon's timelessness;  
But another who lives on,  
Wears in his heart forever  
The space split open by the bullet.  
All under the olive trees,  
All under the olive trees.

A stopwatch and an Ordnance map.

#### VI. Zion's Walls

Come fathers and mothers  
Come sisters and brothers  
Come join us in singing the praises of Zion  
O fathers don't you feel determined to  
meet within the walls of Zion  
We'll shout and go round the walls of Zion



# Stage 3

## Musical 「Man of Mancha (ラ・マンチャの男)」



### ミュージカル「ラ・マンチャの男」

ミュージカル「ラ・マンチャの男」は1965年11月22日、ブロードウェイのアンタ・ワシントン・スクウェア劇場で初演された。「ラ・マンチャの男」とは、16世紀スペインの文豪セルバンテスの代表作「ドン・キホーテ」に登場する老騎士ドン・キホーテのことで、作者デール・ワッサーマンが大作をもとに台本を書いたテレビ劇「我、ドン・キホーテ」を作曲のミッチ・レイと作詩のジョー・ダリオンのコンビで舞台ミュージカル化したものである。初演翌年の1966年には作品、作曲、台本、演出、装置、男優の6部門でトニー賞を獲得し、ブロードウェイ、オフブロードウェイで5年間のロングランを続けた大ヒット作品となった。

### 物語

セルバンテスとその召使いマンセルバントが教会侮辱の罪で投獄された。囚人達は二人に犯した罪の申し開きを迫る。そこで彼は牢を舞台にたとえて芝居をすることによって自らを釈明しようと試みる。こうして物語は始まった・・・。

ラ・マンチャ村に住む老騎士キハナは多くの騎士物語を読みすぎて遂に気が狂い、自分を正義と勇気の騎士ドン・キホーテと思い込む。召使いサンチョを従えた彼は、この世の悪を倒さんため馬に乗りいざ出陣した～「Man of La Mancha」。(ラ・マンチャの男)。幻影の中に生きる騎士には風車が怪物に見え、古い木賃宿が一国の主の城に見える。その宿屋の女中で売春婦のアルドンサは、彼にとって理想の女性ダルシニア姫であった～「Dulcinea」(ダルシニア)。彼は心の底から彼女に真心をつくし、彼女の胸にもこの老人を騎士として慕う心が湧いてきた。そんな彼女はラブ追いの男達にからかわれる～「Little Bird, Little Bird」(かわいい小鳥)。ある日、その宿屋に「Barber's Song」(床屋の歌)を歌いながら陽気な床屋がやってくる。彼のもつヒゲ剃り用の金だらいをみてドン・キホーテは黄金のマンブリーノの兜を持つ騎士だと考え、戦いを挑む～「Golden Helmet of Mambrino」(マンブリーノの黄金の兜)。アルドンサは彼に、一体自分の何が欲しいのかを尋ねる。それに彼は「ドン・キホーテという名の下に戦い、死なせてくれればよい」と答え、どんなに可能性が少なくとも自分は夢に向かって生きて行くのだと歌い上げる～「The Impossible Dream」(見果てぬ夢)。

その後彼は家族により故郷に連れ戻され、元の老人キハナとしてやがて死の床につく。そこへ尋ねてきたのはアルドンサであった。「あなたに会ってすべてが変わった」と、胸に秘めた彼への愛を打ち明ける。彼はもう一度彼女の前で正義と勇気の騎士ドン・キホーテに戻って、ついに息絶える。

再び牢獄の中、囚人達はセルバンテスの物語に深く感動していた。一同は裁判を受けるため出ていくセルバンテスとマンセルバントを、「見果てぬ夢」の大合唱で送るのであった。

### メッセージ 村上哲夫

セルバンテスはこう言った。

「ドン・キホーテはわたし一人のために生まれ、わたしはドン・キホーテのために生まれた。かれはおこなってみせ、わたしは書いてみせた。二人だけが合って一つになれるのだ。」

ミュージカル「ラ・マンチャの男」はこのセルバンテスの言葉を見事に結実させた名作である。

合唱の良さは、一人ではなく大勢が集まり、ひとつとなって音楽をすることだ。歌いに来るのは皆それぞれ違った声を持ち、違った性格や考え方を持った、言わば十人十色の人間達である。だから面白い。

それだけに、前に立つ指揮者は頭ごなしに自分の考えを押しつけたり、無理失理に声をそろえようとしてはならない。一年間指揮者をして、今そう思っている。たしかにそうすれば均整がとれて、聴くにはいいが、それだけに終わってしまうと、そこには指揮者の自己満足だけが残り、音楽としても「良いが、つまらないもの」になってしまう。

「自分の心の底から歌って欲しい」と私は一年間言い続けた。言うのは易いが、やるのはなかなか難しい。「ラ・マンチャの男」はそれを可能にする大きなチャンスをおもてくれた。

ある者がこう言った。「ドン・キホーテは我々のために生まれ、我々はドン・キホーテのために生まれた。かれはおこなってみせ、我々は歌ってみせた。もしこの出会いがなく、一つになれなかったとしたら、我々は非常に重要なものを失ったままであっただろう。」

今日もまた、彼は心の底から歌を歌ってくれるだろう。そう信じている。

### I. Man of La Mancha (I, DON QUIXOTE)

Hear me now, oh thou bleak and unbearable world,  
Thou art base and bebauched as can be:  
And a knight with his banners all bravely unfurled  
Now hurls down his gauntlet to thee!

I am I, Don Quixote, Lord of La Mancha,  
My destiny calls and I go,  
And the wild winds of fortune will carry me onward,  
Oh whithersoever

Hear me, heathens and wizards and serpents of sin!  
All your dastardly doings are past,  
For a holy endeavor is now to begin  
And virtue shall triumph at last!

I am I, Don Quixote, The Lord of La Mancha,  
My destiny calls and I go,  
And the wild winds of fortune will carry me onward,  
Oh whithersoever they blow.

Whithersoever they blow,  
Onward to glory I go!

聞けや、この荒れ果てし世界よ、  
汝、卑しくも卑ち果てし者よ、  
今、旗は勇ましく翻り、  
騎士の鉄拳は振り下されん!

我はドン・キホーテ、ラマンチャの主、  
運命が我を呼ぶ、故に我は行かん、  
荒れ狂う運命の風、我を前へと押し進め、  
行く手も知れず吹き荒ぶ。

聞けや、異教徒、魔法、邪悪な蛇よ、  
あらゆる非道も、もはやこれまで、  
今や聖なる試練が始まり、  
善なる者が勝利せん

我はドン・キホーテ、ラマンチャの主、  
運命が我を呼ぶ、故に我は行かん、  
荒れ狂う運命の風、我を前へと押し進め、  
行く手も知れず吹き荒ぶ。

運命の風が吹き荒ぶ、  
我は進まん、栄光を目指して!

### II. Dulcinea

I have dreamed thee too long,  
Never seen thee or touched thee,  
but known thee with all of my heart,

Half a prayer, half a song,  
Thou hast always been with me,  
though we have been always apart.

Dulcinea... Dulcinea...  
I see heaven when I see thee, Dulcinea,  
And thy name is like a prayer an angel whispers...  
Dulcinea... Dulcinea!

If I reach out to thee,  
Do not tremble and shrink  
from the touch of my hand on thy hair,

Let my fingers but see  
Thou art warm and alive,  
and no phantom to fade in the air,

Dulcinea... Dulcinea...  
I have sought thee, sung thee, dreamed thee, Dulcinea!  
Now I've found thee, and the world shall know thy glory,  
Dulcinea... Dulcinea!

久しくも夢に見しそなた、  
今、初めて会おうとも、  
我が心のすべてにそなたを知り尽くさん、

我が祈り、我が歌、  
たとえ身は遠く離れても、  
我が心、常にそなたと共に有り、

ダルシニア... ダルシニア...  
そなたの姿に我は月夜を見、  
そなたの名は天使の囁く祈りの如し、  
ダルシニア... ダルシニア...

我、この手をそなたに差し出すべ  
その髪に触れようとも、  
怖れ、震えることなかれ、

眼には見えぬと、この指に伝わる  
そなたの生ける温もり、  
そなたは霞と消えゆく幻にあらざる、

ダルシニア... ダルシニア...  
そなたを求め、歌い、夢見ん、  
そなたに逢ひたい、今こそ世界は栄光に輝かん、  
ダルシニア... ダルシニア...

### III. Little Bird, Little Bird

Little bird, little bird,  
In the cinnamon tree,  
Little bird, little bird,  
Do you sing for me?  
Do you bring me word  
Of one I know?

Little bird, little bird,  
I love her so,  
Little bird, little bird,  
I have to know,  
Little bird, little bird,

Beneath this tree, this cinnamon tree,  
We learned to love, we learned to cry:  
For here we met and here we kissed,  
And here one cold and moonless night  
We said goodbye.

Little bird, little bird,  
Oh have pity on me,  
Little bird, little bird,  
Bring her back to me now  
Little bird, little bird,  
'Neath the cinnamon tree,

Little bird, little bird,  
I have waited too long  
Little bird, little bird,  
Without a song,  
Little bird, little bird,  
please fly, please go,

Little bird, little bird,  
and tell her so,  
Little bird, little bird,

かわいい小鳥よ、かわいい小鳥、  
そのシナモンの木の枝で、  
かわいい小鳥よ、かわいい小鳥、  
僕のために歌っておくれ、  
僕の思う通りの言葉を  
聞かせておくれ、

かわいい小鳥よ、かわいい小鳥、  
僕はあの子のことがとても好き、  
かわいい小鳥よ、かわいい小鳥、  
僕はあの子のことを知りたいんだ、  
かわいい小鳥よ、かわいい小鳥よ、

僕らはこのシナモンの木の下で、  
愛すること、そして涙することの意味を知った、  
この木の下で僕らは出会い、口づけをして、  
そして月明かりのない寒い夜に  
僕らは別れた、

かわいい小鳥よ、かわいい小鳥、  
僕を可哀想だと思っておくれ、  
かわいい小鳥よ、かわいい小鳥、  
早くあの子を連れ戻しておくれ、  
かわいい小鳥よ、かわいい小鳥、  
シナモンの木の下に、

かわいい小鳥よ、かわいい小鳥、  
僕はずっと待っていたんだよ、  
かわいい小鳥よ、かわいい小鳥、  
もう歌わないでいいから、  
かわいい小鳥よ、かわいい小鳥、  
飛んで行っておくれ、

かわいい小鳥よ、かわいい小鳥、  
そしてあの子に伝えておくれ、  
かわいい小鳥よ、かわいい小鳥、

### IV. Golden Helmet of Mambrino

(BABAER'S SONG~GOLDEN HELMET OF MAMBRINO)

(BARBER'S SONG)  
Oh, I am a little barber  
And I go my merry way,  
With my razors and my pay,  
I can always earn my pay.

Though your chin be smooth as satin,  
You will need me soon I know,  
For the Lord protects his barbers,  
and He makes the stubble grow.

If I slip when I am shaving you  
And cut you to the quick,  
You can use me as a doctor,  
'Cause I also heal the sick.

### (GOLDEN HELMET OF MAMBRINO)

Thou Golden Helmet of Mambrino,  
With so illustrious a past,  
Too long hast thou been lost to glory,  
Th'art rediscovered now at last!

Golden Helmet of Mambrino,  
There can be no hat like thee!  
Thee and I now,  
Ere I die now,  
Will make golden history!

(BARBER)  
I can hear the cuckoo singing  
in the cuckoo-berry tree...

(SANCHO)  
If he says that that's a helmet,  
I suggest that you agree...

(BARBER)  
But he'll find it is not gold  
and will not make him bold and brave...

(SANCHO)  
Well, at least he'll find it useful  
if he ever needs a shave!

(DON QUIXOTE)  
Golden Helmet of Mambrino,  
There can be no hat like thee!  
Thee and I now,  
Ere I die now,  
Will make golden history!

そうよ、おいらはしがない床屋  
だけだけこう気楽なものさ、  
カミソリと鬚さきありや  
おいらは食っていけるってわけさ、

たとえ君の顎がサテンのようにすべすべでも  
じきにおいらが必要になるさ、  
だって神様がおいらを守ってくれるんだから  
君のおヒゲもすぐ伸びるってわけさ、

万一ヒゲそりの手元がくるって  
君のお顔を切っちゃった時にゃ  
おいらはお医者様に早急さ  
病氣だって治せるんだから、

汝、マンブリーノの黄金の兜  
なんと見事な過去の輝き  
いにしへの彼方に失われし栄光  
ついに今見出せり

マンブリーノの黄金の兜よ  
汝が知きは他になし  
今や我は汝とともにあり  
たとえこの身は果つとも  
黄金の歴史は築かれん

どうやらカクローの  
頭がいかれたらしいぜ

ご主人様がそうおっしゃるのなら  
言うこと聞くのが一番さ

だけどありゃ金じゃない  
力も勇気もわくはずないよ

いや、きつと役に立つさ  
そう、ご主人様がヒゲそりする時にね

マンブリーノの黄金の兜よ  
汝が知きは他になし  
今や我は汝とともにあり  
たとえこの身は果つとも  
黄金の歴史は築かれん

### V. The Impossible Dream

To dream the impossible dream,  
To fight the unbeatable foe,  
To bear with unbearable sorrow,  
To run where the brave dare not go;

To right the unrightable wrong,  
To love, pure and chaste, from afar,  
To try, when your arms are too weary,  
To reach the unreachable star!

This is my Quest  
to follow that star,  
No matter how hopeless,  
no matter how far,

To fight for the right  
without question or pause,  
To be willing to march  
into hell for a heavenly cause!

And I know, if I'll only be true  
to this glorious Quest,  
That my heart will lie peaceful and calm  
when I'm laid to my rest.

And the world will be better for this,  
That one man, scorned and covered with scars,  
Still strove, with his last ounce of courage,  
To reach the unreachable stars!

To dream the impossible dream,  
To fight the unbeatable foe,  
To bear with unbearable sorrow,  
To run where the brave dare not go;

To run where the brave dare not go,  
Though the goal be forever too far,  
To try, though you're wayworn and weary,  
To reach the unreachable star...

To reach the unreachable star,  
Though you know it's impossibly high,  
To live with your heart striving upward  
To a far, unattainable sky! (star!)

不可能を夢見、  
不敗の敵に挑まん  
堪え得ぬ悲しみを乗りこえ、  
勇者も行かぬ地へ向わん

糾せぬ道ちを直し、  
遠か遠くより清き愛さん  
疲れ果てし腕で、努め  
届かぬ星を掴まん!

これこそ我が旅路  
届かぬ星を求めゆかん  
いかに望みうすく、  
遠かなりとも

正義のために戦わん  
疑うことも休むこともなく  
たとえ地獄でも喜び向わん、  
天国をめざすために

この栄光の旅路に  
背を向けることなくば  
わが心平安に満ちて眠らん  
たとえ我が身果つとも

そして世界は善きものとならん  
たとえ勇者は嘲りを受け傷つこうとも  
壊されし勇気振りし最後まで戦わん  
届かぬ星を掴まん!

不可能を夢見、  
不敗の敵に挑まん  
堪え得ぬ悲しみを乗りこえ、  
勇者も行かぬ地へ向わん

勇者も行かぬ地へ向わん  
たとえ行く手は遠か彼方にあろうとも  
たとえ旅につかれ果つとも努めん  
届かぬ星を掴まん

届かぬ星を掴まん  
たとえそれがいかなる高みにあろうとも  
心を高く掲げて生きん、  
遠か遠くに輝く星をめざして、

## Stage 4

### 「R・シュトラウス歌曲集」



リヒャルト・シュトラウスは、1864年6月2日、ミュンヘンに生まれた。彼の父フランツ・シュトラウスは同地宮廷楽団の名ホルン奏者であり、彼はこの父親の奏するホルンの音の子守歌代わりに育った。そして早くから楽才を現わし、20才を迎える頃には、当時の大評論家ハンズリックから、「並々ならぬ才能」を認められるほどに腕を上げたのであった。

1884年、大指揮者ハンス・フォン・ビューローに見出され、マイニンゲンの宮廷楽団の指揮者に就任したシュトラウスは、それまで心酔して来た古典音楽を捨て、ワーグナーやリストといったロマン主義音楽へと傾倒し始めた。しかし彼の生涯の態度が明確になるのは、それから3年後、2人の人物との出会いであった。一人はあのグスタフ・マーラー、そして今一人は、後の生涯の伴侶パウリーネ・デ・アーナである。

当時、歌劇場の指揮者であったマーラーは、自作の交響曲の指揮を通じてシュトラウスと知り合うようになった。そしてマーラーがウィーン宮廷歌劇場指揮者に転進すると、彼はすすんでシュトラウスの新作歌劇を取り上げる程の間柄となった。にもかかわらず、2人の創り出した音楽は、全く正反対と云っても良い特徴を有している。

マーラーの作品は、その全てが歌曲に端を発している、といっても過言ではない。それゆえ音楽の流れは奔放なまでに平明で、自然発生的である。対してシュトラウスの音楽は、いかにもドイツ的な、一種職人技とも呼ぶべき緻密な計算に基づいている。中でもその和声の扱い方は、いわゆる現代音楽への予感をもたらす、大胆かつ複雑さに満ちている、といっても過言ではないだろう。こう書くとシュトラウスの音楽は大層堅苦しいものに思われるかもしれない。しかし一方で彼は又、疑いのないロマンチストであった。殊にパウリーネと結婚してからは、その幸せな環境が、彼にいくつもの美しい旋律を創らせ、多くの素晴らしいリートが生まれた。「ひそやかな誘い」「黄昏の夢」「子守歌」「愛を抱きて」「ツェツィーリエ」の5曲はこの時期の作品である。又、「万霊節」はシュトラウス20代の頃の作品で、彼の歌曲の中でも最もポピュラーな曲の一つである。現在歌われるシュトラウスの歌曲はせいぜい20曲ぐらいだといわれる。しかし前にも述べた難解性を有した彼の歌曲がこれほど歌い継がれているのは、その作品の美しさもさることながら、歌手でもあった妻パウリーネの貢献が大であると言えないだろうか。

シュトラウスは1949年9月8日に、隠棲先のガーマッシュバルテンで85才の生涯を終えた。その最期の言葉は「皆さんに宜しく」だったそうである。いかにも平和な生涯を送った大作曲家にふさわしい言葉ではないか。

#### I. Allerseelen

Stell' auf den Tisch die duftenden Reseden,  
Die letzten roten Aestern trag' herbei,  
Und lass uns wieder von der Liebe reden,  
Wie einst im Mai.  
Gib mir die hand, dass ich die heimlich drücke,  
Und wenn man's sieht, mir ist es einerlei,  
Gib mir nur einen deiner süßen Blicke,  
Wie einst im Mai.  
Es blüht und duftet heut' auf jedem Grabe,  
Ein Tag im Jahr ist ja den Toten frei,  
Komm an mein Herz, dass ich dich wieder habe,  
Wie einst im Mai.

#### II. Heimliche Aufforderung

Auf, hebe die funkelnde Shale Empor zum Mund,  
Und trinke beim Freudenmahle Dein Herz gesund.  
Und wenn du sie hebst, So winke mir heimlich zu,  
Dann lähle ich und dann, Trinke ich still wie du,  
Und still gleich mir Betrachte um uns dass Heer  
Der trunknen Zecher, Verachte sie nicht zu sehr.  
Nein! hebe die blinkende Shale, Gefüllt mit Wein,  
Und lass beim lärmenden Mahle Sie glücklich sein.  
Doch hast du das Mahl genossen Den Drust gestillt,  
Dann verlasse der lauten Genossen Festfreudiges Bild.  
Und wandle hinaus in den Garten Zum Rosenstrauch,  
Dort will ich dich dan erwarten Nach altem Brauch,  
Und will an die Brust dir Sinken, Eh' du's gehofft,  
Und deine Küsse trinken, Wie ehemals oft  
Und flechten in deine Haare Der Rose Pracht,  
O komm, du wunderbare, Ersehnte Nacht!

#### III. Traum durch die Dämmerung

Weite Wiesen im Dämmergrau;  
Die Sonne verglomm, die Sterne ziehn,  
Nun geh' ich hin zu der schönsten Frau,  
Weit über Wiesen im Dämmergrau,  
Tief in den Busch von Jasmin.  
Durch Dämmergrau, in der Liebe Land;  
Ich gehe nicht schnell, ich eile nicht;  
Mich zieht ein weiches samtens Band  
Durch Dämmergrau in der Liebe Land,  
in ein blaues mildes Licht

#### IV. Wiegenlied

Träume, träume du mein süßes Leben,  
Vom dem Himmel, der die Blumen bringt.  
Blüten schimmern da, die beben  
Vom dem Lied, das deine Mutter singt.

Träume träume, Knospe meiner Sorgen,  
Vom dem Tage da die Blume spross;  
Vom dem hellen blütenmorgen,  
Da dein Seelchen sich der Welt erschloss.

Träume, träume, Blüten meine Liebe  
Vom der stillen vom der heil'gen Nacht,  
Da die Blume Seiner Liebe  
Diese Welt zum Himmel mir gemacht.

#### V. Ich trage Meine Minne

Ich trage Meine Minne Vor Wonne stumm,  
Im Herzen und im Sinne Mit mir herum.  
Ja, dass ich dich gefunden, Du liebes Kind,  
Dass freud mich alle Tage, Die mir bescheiden sind,  
Und ob auch der himmel trübe, Kohlschwarz die Nacht.  
Hell leuchtet meiner Liebe Gold sonnige pracht.  
Und lügt auch die welt in Sünden, So tut mir's weh,  
Die arge muss erblinden Vor deiner Unschuld Schnee.

#### VI. Cäcilie

Wenn du es wüsstest was träumen heisst  
Vom brennenden Küssen, vom Wandern  
Und Ruhen mit der Geliebten  
Aug' in Auge und kosend und plauderned.  
Wenn du es wüsstest du neigtest dein Herz!  
Wenn du es wüsstest was bängen heisst  
In einsamen Nächten umshauert vom Sturm.  
Da niemand tröstest milden Mundes die Kampfmüde seele,  
Wenn du es wüsstest du kämest zu mir.  
Wenn du es wüsstest was leben heisst,  
Umhaucht vom der Gottheit weltschaffenden Atem,  
Zu schweben empor, lichtgetragen  
Zu seligen Höohn, Wenn du es wüsstest,  
Du liebtest mit mir.

#### I. 万霊節

香りのよい木犀草を机のうえに飾りましょう。  
名残の紅いひな菊をもってきてください。  
そしてまた二人で愛を語りましょう。  
かつての五月の日のように。  
手をさしのべてください、私はその手をそっと握るでしょう。  
まわりの目なんてどうでもいいのです。  
やさしい眼差しをなげかけてください。  
かつての五月の日のように。  
今日、どの墓にも花は咲き香りは漂い、  
一年でたった一日だけ、亡き人の魂が放たれる日。  
ああ、私の胸にもう一度帰ってきてください!  
かつての五月の日のように。

#### II. ひそやかな誘い

高くあげよ、溢れんばかりのさかずきをおまえの口もとへ。  
飲みよ、この喜びの宴に心ゆくまで。  
そして杯をあげるときはこっそり私にウィンクしておくれ。  
そしたら私もほほえみ返し、おまえに合わせて静かに飲もう。  
また私と同じようにだまって、大勢の仲間をよく見てごらん、  
あの酔っ払った飲んだくれの連中を。でも見下げてはいけません。  
そうだ! もう一度乾杯だ、ワインがこぼれそうになった杯で。  
あの連中にはぎやかなパーティを楽しんでいるから放っておけばいいさ。  
でも陽気に食べ終わって美酒に飽きてしまったら、  
あの明るい連中のお祭り騒ぎをはなれて、  
庭に出ておいでよ、バラの茂みの方へ。  
そこで私はおまえを待とう、皆が昔からそうしてきたように。  
そしてお前の胸にもたれかかり、君の望みど通りに  
口づけを飲んでしまおう。かつての日々を思い出しながら。  
そして見事なバラのような髪のマントに指をからませる。  
おお、早く来れ、待ち望む夜よ!

#### III. たそがれの夢

夕暮れの広い野原  
日は沈み、空に星が輝き始める。  
私は最愛の君のもとへ行こう。  
たそがれの広い野原の向こう、  
ジャズミンの広い茂みのおくへ。  
夕暮れの愛に満ちた地を  
私は急がずに、ゆっくり歩いている。  
柔らかなビロードのリボンに惹かれて  
薄明かりの愛に満ちた地を  
ほのかなあおい光の中へ。

#### IV. 子守歌

夢をごらんよ、夢をごらん、私のいとしい命よ、  
私たちに花をもたらす空のことを。  
そこで花びらは小さく揺れている、  
お前の母さんの歌う歌に。

夢をごらんよ、夢をごらん、私の心に懸かる芽よ、  
日ごとに花が芽生えるのを。  
そしてお前の心がこの世に開いた  
明るい花咲く朝のことを。

夢をごらんよ、夢をごらん、花咲く私のいとしい子よ、  
静かで清らかな夜のことを。  
あの人の愛の花が、私のために、  
この世を天国に作り変えてくれた夜のことを。

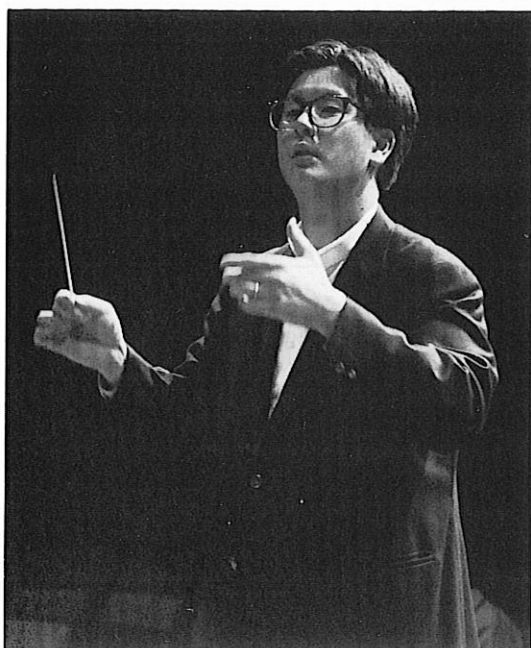
#### V. 愛を抱きて

私は胸に愛を抱く、うれしさのあまりものも言わずに。  
心の中に気持ちの中に、私はどこへ行こうと愛を抱いている。  
そう、私は君と出会ったのだ。愛する君!  
来る日も来る日も何とうれしいことだろう。  
そしてたとえ空はくもり、夜は暗くとも、  
私の愛の金色の光は、あざやかに照り、輝く。  
罪の世は偽り、私を悲しませようとも、  
悪は盲目になるにちがいない。お前の雪のような純潔さの前に。

#### VI. ツェツィーリエ

もしも君が夢を見ることを知っているのなら、  
燃えるような口づけを、  
恋人と一緒に歩き、ともにくつろぐことを、  
互いに目を見つめ、愛を語り、言葉を交わすことを、  
もしも君が知っているのなら、一緒に寝るだろう!  
もしも君がおそれるものに出会ったのなら、  
荒らし吹き荒れるひとりの夜、  
人生の荒波に傷ついた心が温かい言葉によって慰められないとき、  
もしも君がそれに襲われたら、ぼくのところへやって来よう。  
もしも君が生きていることを知っているのなら、  
神の無限の息につつまれて、軽く舞い上がり、  
幸せに満ちた所へ持ち上げられるのだ。  
もしも君がそれを知っているのなら、  
僕と一緒に暮らそうものを!





客演指揮者 / 本山 秀毅

京都市立芸術大学音楽学部声楽専修卒業。西ドイツ国立フランクフルト音楽大学合唱指揮科に留学。1987年同大学を卒業。帰国後はバッハを主とする宗教音楽を中心に演奏活動を続ける。1988年仙台で開催された「日本バッハアカデミー」ではヘルムート・リリンクのアシスタントをつとめる。関西では解説を伴ったカンタータの演奏会「ゲシュプレヘスコンツェルト」を定期的で開催し、教会音楽の多角的な理解を目指している。これまでに「口短調ミサ」「ヨハネ受難曲」「クリスマスオラトリオ」はじめ数多くのバッハの作品を演奏する。

1991年秋にはクリストファー・ホグウッドの演奏会の合唱指揮をつとめる。また各地で合唱指導法の講師としてその普及にも努めている。

指揮をヘルムート・リリンク、ヴォルフガング・シェーファー、ウーベ・グロノスタイの各氏に師事。声楽を蔵田裕行、中村利男、佐々木成子の各氏に師事。

現在、同志社女子大学、大阪音楽大学、同志社大学神学部講師。神戸市混声合唱団常任指揮者。京都バッハ合唱団主宰。

### 第88回定期演奏会に寄せて

演奏旅行中のひとコマである。ウィーン楽友教会のホールでウィーン男声合唱団の「美しき青きドナウ」を聴いた。これ以上は望めないウィーン情緒である。演奏会の後、一緒に聴いていたグリーのメンバーの一人が、「ああいうのが世界的な男声合唱なんですかねえ…」と怪訝そうな顔でたずねてきた。「確かに音程はさほど良くないし、年のせいか声のつやも余りない。同志社グリーの方が数倍も良く訓練されていると思う。けれども音楽の楽しみ方が違う。血となり肉となり、生活の一部となっている。あの余裕あるワルツの揺れ方は「客席オーダー」では絶対に出来ないと思う。それにお客さんの楽しんでいる様子。アンケートに何を書いてやろうなんて思っている人がいるか。」というようなことを言ったように記憶している。多分彼はそれを理解してくれて、彼なりの音楽の新しい分野に、一歩踏み入れたことだろうと思ったのである。

今宵は多分満場の聴衆の皆さんに見詰められての幸せなステージであると思う。しかしヨーロッパでは必ずしも毎回そうではなかった。そんな状況に不慣れであろうグリーの諸君にとっては逆境である。しかし立派に歌った。気落ちするどころか、非常な集中力を伴って。感激したし、励まされた。

音楽的なことのみならず、グリーの諸君は計り知れないほど多くのことを学んだに違いない。それをこの1年生かし、実践してきた集大成が今日の演奏会である。メンバーとともに育んできたハーモニーを、気負う事なく披露してもらいたいと思う。聴衆の皆さんも肩の力を抜いて、彼らの音楽を楽しんでいただきたいものである。



客演指揮者 / 山下一史

1961年広島県に生まれる。1977年桐朋学園高校音楽科に入学。チェロを井上頼豊氏に、指揮を尾高志明、小澤征爾、秋山和慶、(故)森正の各氏に師事。1982年「第17回民音指揮コンクール」で奨励賞を受賞。1984年桐朋学園大学を卒業後、西ドイツのベルリン芸術大学に留学して研鑽を積む。

1985年12月よりヘルベルト・フォン・カラヤン氏の亡くなるまで、彼のアシスタントをつとめる。1986年6月、デンマークで開かれた「ニコライ・マルコ国際指揮者コンクール」で優勝。9月、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の「第九」演奏会で、予定のカラヤン氏急病の為、急速ジーン姿のまま代役をつとめ、好評を博し、話題となった。また、1986年以来、ザルツブルク・フィングステン音楽祭でカラヤンのスタンバイ指揮者として契約。

1987年1月、デンマーク放送交響楽団をはじめ、デンマークの主要オーケストラと共演。1988年1月、第14回「若い芽のコンサート」でNHK交響楽団を指揮、ストラヴィンスキーの舞踏組曲「火の鳥」を演奏。衝撃的なN響デビューを飾る。9月、副指揮者を置かなかったNHK交響楽団から指名を受け、契約。12月、早稲田大学オーケストラとフィリピンに演奏旅行、アキノ大統領臨席の演奏会を指揮。

1989年2～3月、早稲田大学オーケストラとヨーロッパ、アメリカ演奏旅行を行う。同年4月には、NHK交響楽団定期演奏会の指揮者に抜擢され、好評を得ている。

この他日本国内の主要オーケストラとの共演も多く、定期演奏会をはじめ、各種コンサートでの評価は高く。今後最も期待される若手指揮者のひとりとして、確実なキャリアを築きつつある。1988～NHK交響楽団副指揮者。1990年4月、オーケストラ・アンサンブル・金沢プリンシパル・ゲスト・コンダクター、1992年4月からは同オーケストラのパーマネント・ゲスト・コンダクターを務める。

### 第88回定期演奏会に寄せて

同志社グリークラブとは、昨年、全同志社の「メサイア」の演奏会で初めてご一緒しました。尤もその時は混声合唱でしたから、今回が初めての本格的な共演ということになります。

昨年「メサイア」を振った時の第一印象は「とってもパワフルだ。」ということでした。合唱といえば、「第九」がほとんどで、たいていの場合男声が少なく、いつももどかしい思いをしている僕にとっては、同志社の男声コーラスは驚きでさえありました。尤も、時には女声を圧倒してしまつて調整に乗りださなければならぬこともありましたが……。そして、そのパワーはどこから来るのか。今回練習してみてわかりました。それは「歌が好きだ。」という皆さんの気持ちです。

至極当然のことを言うようですが、この「好き」という気持ちが総ての原動力になるのだと思います。皆さんが嬉しそうに歌っている表情を見ると「歌う喜び」が勢よく押し寄せてくるようです。

R. Straussは僕にとって一番大切な作曲家です。僕は彼の交響詩をよく指揮しますが、歌曲の方は「4つの最後の歌」くらいで、あとはもっぱら「聴く」専門です。でも今回、演奏する曲を勉強してみて改めて彼の偉大さを見た思いです。例えばドイツ語のテキストの意味がわからなくてもイメージは、湧いてきますし、もちろん意味を理解すれば尚更、彼のテキストに対する読み込みの深さと、そしてそれをあらゆる作曲技法—絶妙の和声感覚、めくるめく転調などを駆使して、的確に音楽にしてしまう彼の技に驚嘆するでしょう。

この豊かなイメージの世界を皆さんと一緒にどこまで表現できるかが、今回の演奏会の大きな目標です。

ヴォイストレーナー / 大久保 昭男



1953年、東京芸術大学声楽科卒業。矢田部勁吉氏に師事された。近衛秀磨指揮、青山杉作演出によるオペラ「カルメン」のモラレス役でデビューの後、山田耕柞作曲、本人指揮のオペラ「黒船」、ドヴォルジャークのオペラ「ルサルカ」などにも出演される。1959年には、ドイツ・リートおよび日本歌曲による第一回リサイタルを開かれた。現在、昭和音楽大学短期大学部教授、東京芸術大学講師として、教鞭をとられる一方、慶應ワグネル、関西学院グリー、同志社グリーをはじめとする大学のトップクラスの合唱団のヴォイストレーナーとして、関東、関西で幅広く活躍されている。

第88回定期演奏会に寄せて

本日の定期演奏会を迎えられ、心よりおめでとうと申し上げます。

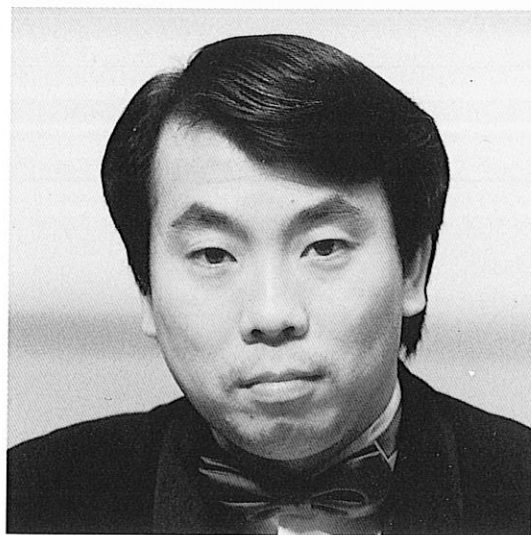
私が、故福永陽一郎先生から頼まれまして同志社グリーのヴォイストレーナーとして来てから、もう30年になったとお話を聞いて居ります。本人である私がそんなに過ぎたとはどうしても考えられない気持ちです。

私は過去のことはあまり憶えていない方で、前へ前へと夢中で仕事をする人間ですが、やはり初めて同志社グリーのレッスンをした時のことは、ほんの5、6年前のこの様に思い出します。あの時は、ヴォイストレーナーという言葉も一般にはあまり使われていない時代でしたし、あの初めてのレッスンはグリーメンも発声法の第一歩ではありながら非常に熱心に私の言うことを聞いてくれたことを今でもはっきりと心に感じています。

それから30年、私には信じられない月日が過ぎてゆき、今こうして立派に歌ってくれる若者たちの音楽を大きな喜びをもって聞くことの幸せを私は深く感じます。

どうぞこれからもより一層の精進を重ねられ、素晴らしい歌をうたって下される様、私は願い祈ります。

ピアノ / 久邇 之宜



国立音楽大学ピアノ科卒業

近藤孝子氏に師事。卒業後、畑中良輔氏の勧めもあって、声楽伴奏者としてデビュー。伴奏法を小林道夫氏に師事。曾我栄子氏の全R. シュトラウスによるプログラムリサイタルがそのデビューであったが、朝日新聞、音楽の友誌などで賞賛された。以後、二期会・NHK・東京室内歌劇場で活躍する。

その後さらに研鑽を積むため'79~'81年にウィーンに留学、ウィーン国立音楽院に入学し、作曲家ローベルト・ショルム氏のもとで伴奏法等を学んだ。当地でORF（オーストリア国立放送）にも出演。

帰国後は、声楽伴奏者として活動を再開しその評価も高い。声楽及び器楽その他合唱に興味をもち、合唱音楽のCDを東芝EMIより多数リリース、またビクターからは松本美和子氏の「トスティ歌曲集」で、ピアニストをつとめる。

第88回定期演奏会に寄せて

第88回定期演奏会おめでとうございます。

同志社グリーとは今年の6月に東西四連で一緒できるはずでした。曲目も、故福永陽一郎先生と、同志社グリークラブ定演で最後に共演できた「ボギーとベス」で、これは私の大好きな曲でもあり、楽しみにしておりましたが、持病の腰痛の悪化により、幻となってしまいました。一時は私自身、車椅子の生活となるかもしれない、などといわれたために、気にはしつつも、闘病生活の中では、ただただグリーの諸君に申訳けなく思うのみでした。ところが、7月に再び同志社グリーから定演の依頼を受けた時には、しばらくは同志社のグリーメンとは会えないだろうと思っていただけに、喜びも一潮でした。

曲目も、私が初めて同志社グリーと共演させて頂いた頃と同じ、「R. シュトラウス歌曲集」とあっては、燃えないわけがありません。指揮者の山下先生の棒の下、同志社グリーメンとともに、「青春の曲集」を思いきり味わいたいと思います。

ピアノ / 長田 育忠



同志社大学法学部卒業。

器楽・独唱・合唱等の伴奏者として、また宗教音楽のオルガニストとして数々の演奏会に出演。86年2月ポストン交響楽団京都公演（マラー：交響曲第3番）の際、小澤征爾氏指揮による合唱練習に伴奏者として参加。86年6月、90年1月、91年1月にジョイントリサイタルを開催。ピアノを山下啓子、遠山つや、松野景一、山崎孝、ジョルジ・ナードル、H. ビュイグ＝ロジェの諸氏に師事。和声学を島田和昭氏に師事。

現在は伴奏者として幅広く活躍する一方、合唱のための編曲も数多く手がけている。（社）全日本ピアノ指導者協会正会員

第88回定期演奏会に寄せて

今年もまた、定期演奏会で同志社グリークラブの皆さんと充実したひとときを過ごす事ができ、とてもうれしく思っています。

今回、本山秀毅先生とは初めてご一緒させていただく事になった訳ですが、不勉強な事に私は、今日演奏される曲を含め、コーブランドが美しい歌曲を数多く書いている事をつい最近まで知りませんでした。いずれも素朴なメロディーや単純なリズムの中に何か人の心をひきつけるものがあって、これはきっと楽しいステージになるのではないかと期待しています。

「今年は楽しい曲をやりたいと思っているので、「ラ・マンチャの男」にしました。」関西六連と定演の曲目が決まった事を私に報らせる電話で、学生指揮者の村上君はこう言いました。ここ数年私はほぼ毎年のように学生指揮者とステージを共にさせていただいているので、そのお陰でいろいろな曲を演奏する機会に恵まれているのですが、年ごとの彼らの練習方針や、目指す音楽の方向といったもののカラーの違いが、その選曲によく表われていて、それがまた毎年変化に富んでいてとてもおもしろいと思うのです。

（大体彼らは二年と続けて同じ傾向の曲をやりたい様子です。）今年の「ラ・マンチャの男」はしかし、歌う側にとってはなかなかハードな曲のようです。楽しい歌って、さらに聴き手にも楽しんでもらうのは、やはり大変な事なのではないでしょうか。師走の何かと忙しい週末にこの会場に足を運んで下さった方々が、家路を急ぎながら、今日演奏された曲の中のほんの一節でも楽しく口ずさんでいただけるような、そんな音楽会になれば、と願っています。

ティンパニ / 村上 博美



京都に生まれる。

1982年京都市立芸術大学音楽学部卒業。

村本一洋・上埜孝の各氏に師事、現在、フリーの打楽器奏者としてオーケストラやアンサンブル等、幅広い活動を行っている。

マリンバ・アンサンブル・グループ・輪<RIM>メンバー。

第88回定期演奏会に寄せて

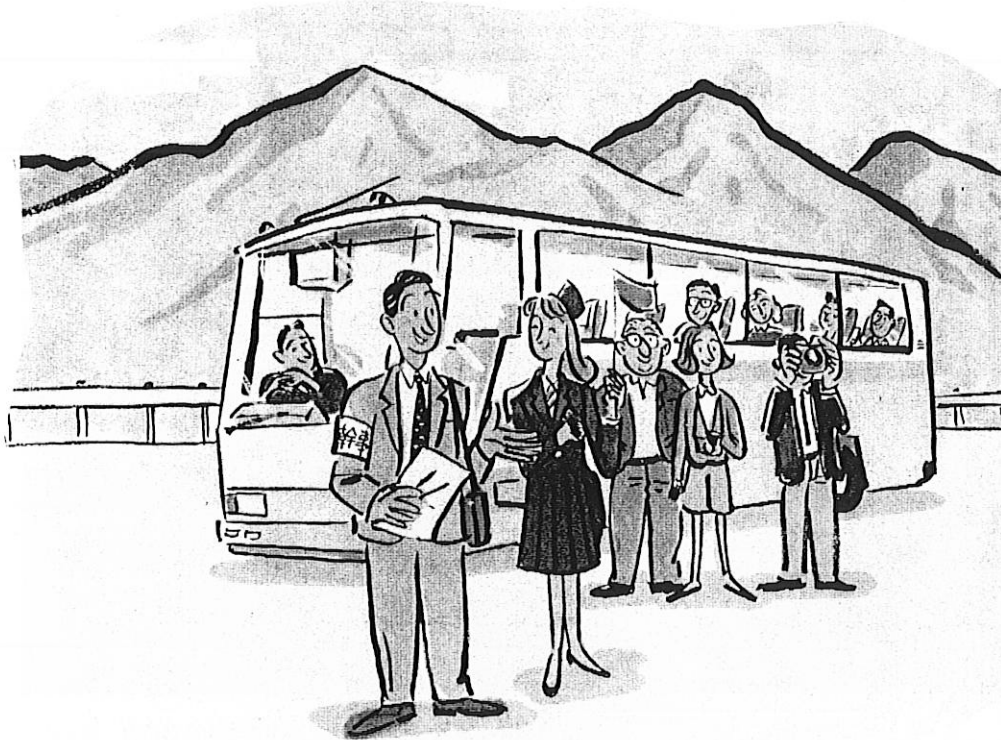
同志社グリークラブの皆さま。第88回定期演奏会の御開催を心よりお祝い申し上げます。この晴れのステージで共演させていただきまします事を、心より嬉しく思います。

私は現在、「フリー」の打楽器奏者として、演奏活動していますが、オーケストラの仕事も割に多く、そのオーケストラでは度々、合唱付の曲を演奏する事もあります。もしかすると、いつかどこかで皆さんと共演した事があるかもしれませんね。私は、オーケストラ以外のこういう形で、「グリー」と共演させていただいた事は、3回程しかありませんが、あの男声の低音の響きの深さ、力強さに、すっかり魅了されてしまいました。女である私には、とても出す事の出来ない響きですから。

そういえば学生の頃、今や年末恒例となって来ましたベートヴェンの「第九」の演奏会に合唱団の一員として参加した事があります。その時、あのマーチの男声合唱の所がとてもカッコ良くて、自分は歌えないけれども、あのマーチが聴こえて来るとワクワクしたものです。今回、この演奏会で私が演奏する楽器はティンパニですが、この楽器、男声合唱にとっても良く似合う、と、私は思っています。そして、サミュエル・バーバーのこの曲も、ドラマティックで大変素晴らしい曲です。そんなわけで、今回の共演は私にとって、とてもとても楽しみです。

良い演奏会になりますように。





グループのために  
たった二日でも、心に残る二日にしたい。  
幹事さんのベスト・アレンジをお手伝い。

みんなが楽しみにしていた日帰りレクリエーション。

でも、万が一事故があったら大変です。

運動会の二人三脚でアキレス腱を切ったら？チャーターしたバスが

交通事故に巻き込まれてケガをしたら？

子供会のバーベキューでヤカンを倒してヤケドをしたら？

団体行事では、幹事さんの心配もなおさらです。

Jiの日帰り保険は、わずかな負担でワイドな補償。幹事さんも安心して楽しめます。

団体向

(行事参加者の傷害危険担保  
特約セット普通傷害保険)

# Jiの日帰り保険

1. 1日の参加者が50人以上の日帰り旅行・行事が対象となります。
2. 一人あたり、ほんのわずかな保険料で参加者全員をお守りします。
3. 行事参加中、集合から解散までの傷害事故を補償します。

※日帰り保険の詳細は次のインフォメーションまたは弊社代理店までお問い合わせください。

インフォメーション ☎ 0120-129971

国際的な安心ネットサービス  
ジェイアイ傷害火災保険株式会社  
〒105 東京都港区新橋6-1-11 秀和製成ビル ☎ 03-5470-6111



VIDEO, RECORDING, DESIGN

株式会社 サウンドスタジオ OKA

〒606 京都市左京区下鴨半木町70

☎(075)712-5710 FAX (075)721-0835



私達スタッフは、皆様とのコミュニケーション  
を大切に実績ある技術で今宵のコンサートの  
CD制作を担当しております。

Apple Computer  
Authorized Reseller

システム設計・販売・サポート・出力サービス

**OKA GRAPHIC CENTER**

〒606 京都市左京区下鴨半木町70

☎(075)711-6155 FAX (075)711-6758

人へ。社会へ。地球へ。 TOYOTA

Are you **WINDOM**?



**トヨタカローラ 南海株式会社**

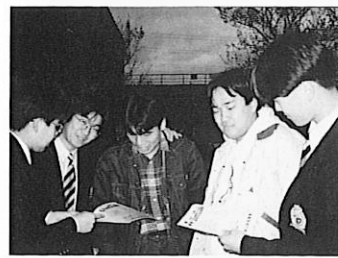
■本社 〒592 堺市浜寺諏訪森町西1丁7番地 ☎0722(61)8881(代)





春合宿 3/15~20

「おお、雪じゃ雪じゃ。雪が降るとる。」私はひそかにはしゃいだ。今年の春合宿はまだスキー客で賑わう八手北高原で行われた。白銀に舞うスキーヤーたちのさわやかな表情とは対角線上に位置する私たちの〇〇そうな顔。しかし雪の中の合宿所内では東西四連に向けて夏合宿のファイヤーストーム(なんのことだろう?)を彷彿させる“炎のポギベス”が創り上げられていったのだ。また各パートごとに設けられた「ふとんで遊ぼう」のコーナーでは、BASS.4 N野さんの後継者をめぐって熱く激しい闘いが繰り広げられていたが、見事BARI.2 K嶋が、第21代学生チャンピオンに輝いた。写真は最終日恒例の老若不問カルテット大会優勝メンバー。 <Sec. III M下>



新勸・オリエンテーション 4/2~6

今年も新勸の季節がやって来た。僕は新勸委員という大役をおおせつかってしまったので、いやあ、もうほんまにがんばってしまった。ことに2回生は、昼間は牛馬のごとくこき使われ、夜は夜で王将に行っても座れず、食えず、でも金は払えという、もう奴隷のごとくの扱いをうけてしまうのであったー!! いやー長い1週間やったなー。まあでもそのかいあって今年ほんまに優秀な入ってくれてよかったよ。 (んなら去年のはどうやっちゅーねん?) あっ、ドラえもんの時聞じゃ。それじゃまた来年。じゃ、さいなら。 <Sec. II かわにし>



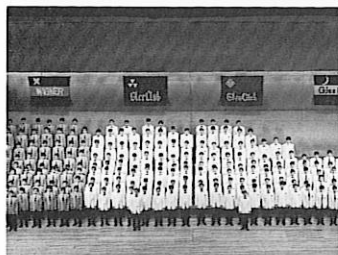
六連運動会 5/3

5月3日、前日までの雨もうその様に晴れ上がり、快晴のもとで六連運動会が開催された。我が同グリーは、一昨年が三位、昨年が二位ということで、順番から行くとは今年は優勝しかない。相撲、綱引きなどで他を圧倒し、午前中をトップで終る。さらに応援女子大の大阪樟蔭のお姉様方の手作り弁当が効いたらしく、リズム感のなさが懸念された応援合戦でも1位をとり、今年こそ優勝の期待は膨らんだ。そして最後のリレーでも最初はトップを独走し、優勝を確信した瞬間悪夢が襲う。一回生Nがバトンを落とし今年も優勝を逃し落胆するグリーメンとは対照的に満面笑みを浮かべるNだった。結局、結果は第三位。でも、応援してくれた大阪樟蔭の皆さん、ありがとう♡ <Bass. III Uc&Y>



京都合唱祭 5/30~31

何を隠そう、京都公会館でバンツードで走ったのは私です。それは仮装大会でTop.2 Mと共にエリマキトカゲとミイラ男をしたときのことですが、趣向を凝らした周りに対して、我々は裸同然だったので、本当に恥ずかしかったです。(詳しくは本人に) さて、演奏の方では、「Ave Regina Caelorum」と「Little Innocent Lamb」の2曲を演奏しましたが、聴衆はそのヨーロップの風を含んだ魅惑の同グリーワールドの虜となっていました。(なんやそりゃ?) その後に行われた恒例のバーコン・鴨川・渡河も無事に終わり、私の嵐のような一日もやっと終わりを告げた。エッ何か芸をしるって? もう勘弁してくださいよ。 <Top. II K島>



第41回東西四大学合唱演奏会 6/28

指揮者、井上道義先生のダンサブルな棒がさっと閃き、続いて珠世先生のピアノが颯爽とフェスティバルホールを駆け回る。「Waー」と我々が歌い始めれば、グランド・オペラの幕開け、そこはもう、メトロポリタン歌劇場なのである。ボーギーとベスには、塚田先生、岡坊先生をお迎えし、まさにオール・スター・キャスト。セットはなくとも、豪華絢爛なオペラの舞台が繰り広げられたのであった。合同演奏では、飯盛泰次郎先生に同志社女子大学音楽学部管弦楽団の協力も得、ワーグナーの「使徒の愛餐」を演奏。滅多に無い女子大オケとの共演に、男声一同大いに気(声?)を良くし、思い出深い演奏会となった。 <Top. III F>



祇園祭 7/17

日本の初夏の風物詩である祇園祭には、我々グリークラブも毎年参加できる。我々は太子山の曳き手として参加しています。出発の前に歌う「齊太郎節」は、太子山町の名物にもなっており、太子山の皆さんも大変喜んでいただいています。当日は雨が降ってきて、寒さで震えながらの巡行ではあったが、練習前なのに、【あじびる】でふるまわれた日本酒のパワーが手伝ってか(私はこれでチューリッヒで怒られました。by G) とうにか乗り切ることができた。しかし、わらじでアスファルトを歩くと、実にしんどいものですね。足から血が出ている部員も少なくありませんでした。だが参加者一同こう思ったに違いありません。「練習よりマジだよ」

夏期演奏旅行

演奏旅行は、普段関西で演奏を行う我が団が全国の皆様に合唱の素晴らしさを知ってもらうために年一度地方で行う大切な活動のひとつで、また、1回生にとってのデビューステージという、思い出のステージとなるものです。ということで今年は7月25日、小旅行気分で行く高松へ。高松駅でのラジオ出演と、団員全員気分が盛り上がりいざステージへ。さすがに緊張ぎみの1回生と、指揮者デビューとなる、3回生福田さんとともに素晴らしい演奏会を成し遂げることができました。その後のレセではOBの皆様と一緒に盛り上がり、その勢いで深夜の市街に繰り出す者、ホテルの一室で語り合う者と、団員皆有意義な演奏旅行となりました。 <Bari. II Y>

夏合宿 9/7~12

我が団の夏合宿はまず朝7時半のオーダーに始まる。無論これを寝過ごしたら命はない。起床後は午後11時の消灯まで3回の食事休憩を挟みひたすら歌い続けるのである。ハードではあるがその分充実した日々である。合宿の雰囲気は最終日が近づくにつれ徐々に不気味な変容を見せる。そしてそれは最終日に絶頂に達し、印象的な最後(最期?)の練習が終わるとそれまでの静寂を破り突如としてあの〇△×が全てを支配するのだ。それはそのはかりしれない存在感でもって夏合宿最大の思い出となり、皆の心に残る。合宿を締めくくるとは2回生による演奏大会である。今年は評判は良く、その劇的オープニングは今も私の脳裏に焼き付いている。 <Top. II M>

片桐 哲先生召天10周年記念演奏会 10/18

同志社グリークラブの創設者であり、初代指揮者、名誉顧問としてグリークラブを生み育ててくださった片桐 哲先生が逝去されて今年で10年となりました。これを機会に先生を偲んで同志社グリークラブ、フローバークラブ、そして同志社女子大学音楽学科合唱団の三つの合唱団が、同志社女子大学栄光館に集い、片桐先生の召天10周年記念礼拝と追悼演奏会を開催しました。晴天に恵まれたこの日の演奏会で我が団は「日本のこころ」を歌いあげ、片桐先生が名付けてくださったグリークラブという名称が、単に男声合唱団という意味だけでなく、陽気な愉快な合唱団であるということをお忘れずに、今後とも頑張ろうと心に誓ったのでした。 <Bari. III TK(geji)>

第19回関西六大学合唱演奏会 11/1

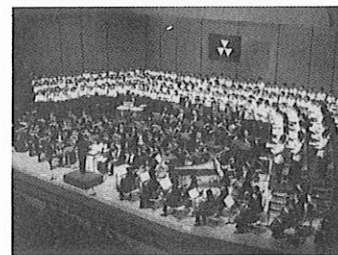
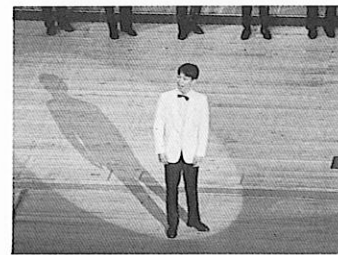
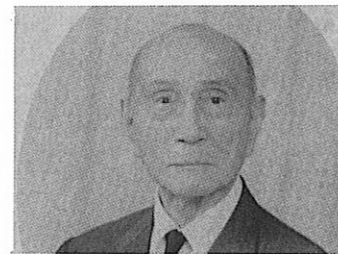
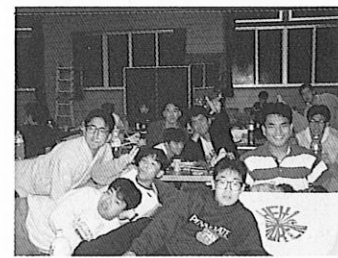
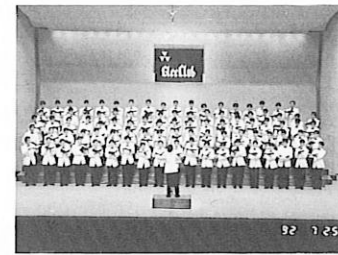
去る11月1日に関西六大学合唱演奏会がフェスティバルホールにおいて盛大に開催された。各団気合を込めた演奏が行われる中、我が同志社は「ラ・マンチャの男」で最終ステージを締めくくった。当日は朝から練習を行ったが、部員に緊張感が欠け、長田先生に注意を受けるといった一幕もあり、心配されたガフェスのステージに乗り、緞帳が上がった瞬間部員の顔が変わった。正義、夢、愛を説く教祖村上哲夫のドラマティックな指揮のもと、鋭くかつ同志社らしい明朗な演奏でこの大曲を歌い上げた。嵐のような拍手と、石丸先生の指揮による合同ステージでニグロを歌ったことは、また私達のグリーライフに新たな感動の一ページを加えた。 <Top. III G. I.>

全同志社メサイア演奏会 12/25

京都の年末のビッグイベントとしてすっかり定着した感のある「全同志社メサイア」も今年で28回になります。今年には指揮者に羽山和明先生をお呼びして、京都公会館第一ホールで行われます。合唱は私たち同志社グリークラブと同志社女子大学メサイア研究会、一般公募で、そして管弦楽を同志社交響楽団と同志社大学の学生が中心となってやっております。定期演奏会の5日後ですが、今日いらした方は、ぜひともメサイア演奏会にも足を運んでくれるようよろしくお願いします。尚、女性の方は、一般公募としてこの演奏会で歌うことができますので奮ってご参加ください。 <Bass. II S川>

フェアウェルコンサート

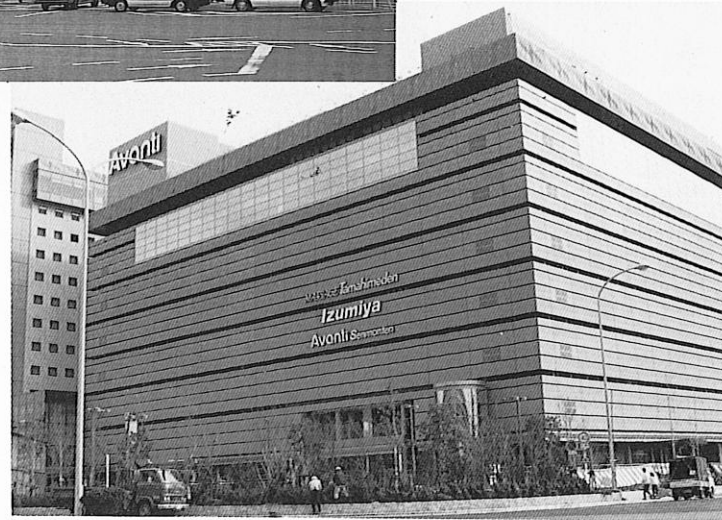
フェアウェルは、新体制になって最初のステージであり、4回生にとっては泣いても笑ってもこれが最後のステージなのです。うれしくてたまらない人、どっぶりつかってしまって卒団したくない人、みなさんいろいろな思いで卒団していかれることなのでしょう。記念式典では、その余りにクサイ演出に私は毎年涙を流させてもらっています。今年こそは泣かないぞと思うのですが、この年になってマジで泣けるというのはこの日だけだと思って泣いてしまうのです。でもしばらくすると、後のコンパへの恐怖がこの涙をきれいに乾かしてくれます。コンパの後には何がなんだか分からなくなってしまい、さっきの涙のことなどすっかり忘れてしまい、地獄に落ちた気分になっているのです。 <Top. III A>



耳より情報  
チラシ大絶賛:  
「クラブのあたたかい雰囲気が出て、すごくいい感じ」(20才女子大生) 「まさに画期的だ。すばらしい」(50才会社員) 「このクラブなら安心して息子が勧められます」(39才主婦) ……という夢を私は見た(ツチー)



人の真ん中、  
街の真ん中。



△白梅町店  
 アバンティ京都店▷

いつも、そこにイズミヤがいます。

そこは、人と自然が調和した安らぎの空間。  
 人々が行き交い、さまざまな生活・文化・情報が生まれる場所。  
 物の豊かさから心の豊かさへ。  
 移りゆく価値観の中、流通の役割は大きく変わろうとしている。  
 それは、新たな生活文化の創造。  
 心を込めて、イズミヤから。

## こんなに便利な京信ご存知ですか？



京信キャッシュカードは、「振込」もOK  
 振込手数料は窓口よりも100円おトク。入金・出金なら、日本全国で使えます。



京信は、家の近くにもある  
 京都、滋賀、北大阪を網羅した店舗と店外ATMの合計約150カ所以上の  
 キャッシュコーナー ネットワークの広さが自慢です。



なにしろ、サンデーバンキングがうれしい  
 土曜日、日曜日、入金・出金・振込予約・通帳記帳ができます。  
 (※日曜日はサンデーバンキング実施店舗のみ)



お忙しいあなたに京信郵送申込サービス「ポストイン」  
 ご来店いただかなくても、総合口座通帳とキャッシュカードがお手もとに届きます。  
 公共料金自動支払もご利用いただけます。

**京都信用金庫**

本店 京都四條柳馬場 TEL (075) 221-2111

## 第61回 関西学院グリークラブリサイタル

- 1993年1月17日(日) 東京公演 於：昭和女子大学人見記念講堂
- 1993年1月30日(土) 神戸公演 於：神戸文化ホール大ホール
- 1993年1月31日(日) 大阪公演 於：フェスティバルホール

- MISSA IN B 作曲 Antonio Lotti 指揮 林 雄一郎
- フランスの詩による男声合唱曲集「月下の一群」 訳詩 堀口 大學 作曲 南 弘明 指揮 次田 雅彦
- 古典イタリア歌曲集 編曲 福永陽一郎 指揮 広瀬 康夫
- 男声合唱による「井上陽水の世界」 編曲 源田俊一郎 指揮 北村 協一
- 男声合唱組曲「雪国にて」 作詩 堀口 大學 作曲 多田 武彦 指揮 北村 協一

# 大久保昭男先生 御指導30周年記念インタビュー



1962年5月3日、フレッシュメン実力養成のための春合宿に、故福永陽一郎先生の御紹介で初めて御来団されて以来30年。私達、同志社グリーンクラブのヴォイス・トレーナーとして、今日まで御指導戴き、我々を技術的、精神的に支え続けて下さる“ダグ先生”こと、大久保昭男先生の御指導30周年を記念し、先生にいろいろとお話を伺いました。

1992. 10. 9 (金) 川端二条、赤垣屋

— 本日はたいへんお忙しい中、時間を割いていただきましてありがとうございます。先生が我が団を御指導されるようになって今年で30年目を迎えましたが、いかがですか？

「毎年皆さんの演奏会が素晴らしいものとなるように、皆さんとレッスンを重ねている間に次々と演奏会が過ぎ、後ろを振り返ることもなく前へ前へと進んできました。ですから何十年もの年月は、少しも感じることはありませんでした。毎年4月には、新しい1年生が入ってきて、夢中になって練習をしてゆくうちに上級生と全く一つとなって、定期演奏会では心身で歌い上げます。私はそういう姿に触れるたびに、大きな喜びを感じますし、学生の音楽に対する情熱、真摯な態度に心をうたれます。だからこんなにも長くお付き合いすることになったのでしょうね。」

— 先生がはじめて来られた30年前の我が団は、どのような様子でしたか？

「とにかく元気が良く、熱心で、意欲ある者が多いクラブでしたね。なんとかして高い声を張り上げてやろう、という気持は、それはもう素晴らしいものでした。(笑) だから曲によっては、ものすごい演奏をするのだけれど、繊細な曲を美しく歌うとなると、どうもね…。でも、なにも昔に限ったことじゃなくて、今にも十分に言えることだけだ。」

— 先生は、ワグネル、関学グリーンをはじめ、数多くの合唱団で御指導されておられますが、その中であって我が団にはどのような印象をおもちですか。

「同志社グリーンというのは、いつも活気に満ちあふれ、その熱意には感心させられます。しかし、時々ファイトに満ち過ぎてしまって、“歌う”ことからはみ出して、単に“叫び”となってしまうことがあります。これでは、いいものをもっていても台無しです。もっと、個々が自分の出している声を自分で聞き分けるようにしないとだめですね。いつも私が言っているように、深く美しい声、力強い声、静かな声、すべてが音楽的な声でなければなりません。そこをしっかりと意識すれば、今以上に音楽の幅も広がるでしょうし、表現力も向上すると思います。でも、伝統とは恐ろしいもので…。(笑)」

— とても不思議というか、すごいと思うことなのですが、ワグネルも、関学グリーンも、我が団も、先生に発声を御指導戴いておりますが、それぞれが全く異ったカラーをだしていますよね。

「どのクラブにも、それぞれに素晴らしい伝統と個性があります。私はいつも、それぞれの良い伝統を是非引き継いでゆく手助けをしたいと思っていますし、個性を十分にのばして、そのクラブなりの魅力を引き出してやりたいと思っています。同志社には同志社の、関学には関学の、という具合にね。」

— それでも、ワグネルも関学も同志社も、それぞれの特徴は全く違いますが、最も根本的なところでは一つにつながっているのですよね。四連の時、隣りで歌っていたワグネルアンも、関学の奴も、やはり、先生に教えて戴いているのだ、と実感しました。当たり前の話ですけれどね。



## H 3卒 佐々木 博

今度、御指導30周年をお迎えられることを、心からお祝いすると共に、今日に至るまでの尊い歲月、常に同志社グリーンクラブを尊大なる御力で支え続けて下さったことに対して、多大なる敬意と感謝の気持ちを、お贈りさせて戴きます。今後私と同様に大学の門をくぐって、初めて合唱の世界へ飛び込んでくる若人を含め、多くの新しいグリーンメンと出会う、御指導されることと思います。どうかそんな彼らにも、先生の愛情あふれる厳格さと情熱でもって、合唱の素晴らしさを、そして充実した感動に満ちた4年間をお与え下さることを、熱くお願い申し上げます。末筆ながら、大久保先生の今後の益々の御発展と、御健勝を心よりお祈り申し上げます。

— ところで、先生御自身がリサイタルを開かれた時のお話を、お聞かせ戴きませんか

「リサイタルでは、だいたい20曲近くの歌をうたいますので、それまでの努力はたいへんなものです。それに、自分ひとりが頼りなので、そのプレッシャーというのは、相当なものです。こんなに苦しい思いをするくらいなら、やめておけば良かった、とさえ思ってしまう。本番が始まってからも緊張の連続です。それでもステージが進むにつれて緊張がとけはじめてくると、しだいに気持ち良く歌えるようになってきます。そして、熱い熱い感動が私の体を突き抜けてゆくのです。この時、私は歌手としての喜びを全身に感じますね。この感覚が忘れられなくて、苦しくても、また開いてみようと思ってしまうのですよね。」

— どのような曲をレパートリーとされておられたのですか。

「ドイツの歌曲が中心でした。私の声がオペラ的ではなかったということもありましたが、歌曲でも、とりわけ叙情的な歌曲の方が声にあっていましたし、性格にもあっていました。あとは、日本の歌曲もよくとり挙げました。日本人ならではの情緒性、繊細な感性には、やはり共感するものが多いですし、本当に好きなのです。若い頃に、山田耕筰先生の指揮で歌ったことがあるのですが、今でもその時のことは鮮明に覚えていますね。」

— 今日は最後に一曲ご披露していただけたら—

「なにを言ってるの。へんなことを言うのはよしなさいよ。そんなことを言っていると、個人攻撃しますよ。」(笑)



## H 2卒 伊東 恵司

「なーにあんたその振り方…」  
「みんなどうしてこんなことも知らないの、学指揮は何やってたの…」  
学生指揮者にとって、大久保先生の練習ほど緊張することは無かったのではないが、特に中々上手く行かない時など、思わぬ所から(とばかり?)が飛んでくるので、いつも冷や冷やしていたものである。ただ私にとって特に忘れられない思い出は、4回生の同窓交歓演奏会である。私たちの演奏した「月下の一群」を聞いて、先生が涙を流されたという噂が流れたことがあったのだ。きっと誰かが大袈裟に言ったネタだろうというところで落ちついてたのだが、その後暫くしてから確かめてみると、実は本当の事だったと言って下さった。その時の言葉がとっても嬉しかったのは言うまでもないが、逆に、プロもアマも関係無く純粋な音楽として演奏を聴いて下さっていた先生の態度に深く感動した。ステージの成功や発声という技術以上に「音楽」という豊かな世界を教えて下さったこと…初めて合唱する者が多いこの素人集団に対して本当に熱心に指導して下さったこと…グリーンクラブにとって先生の存在はあまりにも大きい。これからもういつもあの調子で後輩達の事を宜しくお願い致します。



## S. 63卒 辻本 林一郎

秋深まる10月のある朝、上賀茂の下宿で私はまだ眠っていた。リリリーと電話が鳴り眠い目をこすり「はい、辻本です。」すると

「あっもしもし大久保ですが」私は一瞬、(ワグネルの大久保にしては声が高いが…)と思った次の瞬間、顔面から血の気が引くのを感じた。先生との約束を忘れていたのは私であった。その後は「チョンボの〇〇」とかわいがっていただいた。先生との思い出はほんとうにたくさんあり社会人になった今も忘れられません。厳しい一面ももちろんもっておられますが、私たち学生と一緒に酒を呑んだり、冗談を言ったり、ユーモアとおもいやりに溢れる方だと感じておりました。今日も日本のどこかで「あなたのミーはちょっと違うのよ。こうよ。ミー」とレッスンをされていることでしょうか。いつまでもお元気で私たち同志社グリーンをご指導続けてくださるようお願い申し上げます。

— 最後になりましたが、先生が私達に望んでいらっしゃることは、どのようなことですか

「メンバーというのは、大学生だから人数の増減はあるでしょうけれど、そういうこと以前に、一人一人が音楽をして欲しいと思います。そして、歌うための正しい発声法を身につけて、わずかでもいいから自分のレベルを高める努力を続けて欲しいものです。全員にそのような意識があれば、間違いなく今以上にいい音楽ができると思います。そして、多くの先輩達と、陽ちゃん先生とで築き上げた、素晴らしい伝統を、あとに残る人がしっかり引き継いで、さらにふくらませて欲しいですね。」

大久保先生を囲んで、とても楽しい時を過ごすことができました。先生、30年もの間本当に有難うございました。出来の悪い者ばかりですが、これからも御指導をお願い致します。先生の教えを胸に、今日も我々は精一杯歌います。



玉姫殿は只今、クレージュ  
オリジナルドレスご予約受承り中。

だから、クレージュ。

0120-222-628



玉姫殿 守口 玉姫殿  
Tel. 06-374-3338 大阪市北区豊崎4-16-15 Tel. 06-993-3333 守口市浜町1丁目1番地

FREE WAY  
フリーウェイ

NET

日本教育旅行

075(351)0405

文化系 体育系 テニス  
サークルどんなクラブでも  
合宿のことなら  
日本教育旅行に  
ど〜ん とお任せ下さいませ。



京都市下京区下珠数屋町通東洞院東入  
日本教育旅行株式会社  
075(351)0405

## ミュージックツアーの専門セクション

JTB社内で唯一の音楽旅行のセクションが **ライブデスク** です。創立以来20年、多数の経験と実績を誇る音楽に詳しいスタッフが皆様のご用命をお待ちしています。

ツアーにはザルツブルグ・バイロイトの音楽祭やウィーン・ニューイヤーコンサートなどを訪れる「鑑賞旅行」と、演奏旅行・音楽視察旅行・研修旅行などオーダーメイドの音楽ツアーがごさいます。

### オーダーメイドツアーの取扱実績

同志社グリーンクラブ、慶應義塾ワグネルソサイエティ、中央大学などプロ・アマチュアの演奏旅行、東京FMなどマスコミの音楽研修旅行、地方自治体の海外演奏会場視察旅行など多数

### ライブ「春休み特別企画」

- 1993年3月13日(土)～3月23日(火) 11日間「イタリア音楽セミナー」マリア・キアラ、アントニオ・カッシネリJrの両名が親しくプライベートレッスンをを行います。類似ツアーと異なり、極めて内容の充実したレッスンツアーです。
- 1992年12月～93年2月の間出発日多数 8日間「ウィンタースペシャル」格安の料金でウィーン、ミラノのオペラが楽しめるツアーです。¥189,000円より

詳しいパンフレット・問い合わせ先

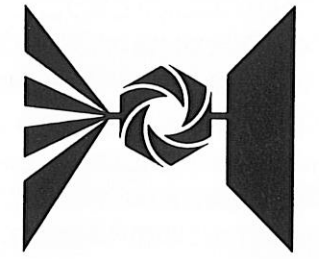
**JTB ライブデスク**  
JTB海外旅行市ヶ谷支店内  
TEL: 03-3266-7402  
(音楽鑑賞ツアー)  
03-3266-7420  
(オーダーメイドツアー)  
〒162 東京都新宿区市ヶ谷本村町1-1  
住友市ヶ谷ビル1F

主催 日本交通公社  
運輸大臣登録第一種旅行業執照  
日本旅行業協会  
東京都千代田区丸の内1-4-1 千100

## きらめく瞬間を 未来に伝えたい。

好きなことをしている時、  
感激で胸がいっぱいになった時、  
誰もが、とってもいい顔をしています。

あなたの記念すべきその時を、あなたの素敵にきらめくその一瞬を、私達はのがしません。  
未来に残す素敵な記念写真をお届けするために、いつもいっしょうけんめいの  
大阪フォトサービスです。



OSAKA PHOTO SERVICE  
株式会社 大阪フォトサービス  
〒550 大阪市西区江之子島1丁目5-17  
TEL. (06) 443-7608 (代表)  
FAX. (06) 443-4437



# ヨーロッパ演奏旅行

団 長・澁谷 昭彦  
指 揮 者・本山 秀毅

1992年 2月19日～3月10日



## 演奏曲名

- Missa Mater Patris (Josquin des Prez)
- 現代宗教曲集  
Locus iste (Anton Bruckner)  
Ave Maria (Anton Bruckner)  
Jubilate Deo (Henk Bading)  
Ave Regina Caelorum (Henk Bading)
- 日本民謡集  
最上川舟唄  
音戸の舟唄  
そうらん節  
五木の子守唄  
おてもやん
- 男声合唱のためのアイヌのウポポ (清水 脩)



イギリス

2月23日。終日フリー。前日の時差マジックによる25時間強制移動にもかかわらず、皆、普段の練習に来る時とは別人のような顔をして町へと繰り出していました。

大英博物館、バッキンガム宮殿、ウエストミンスター寺院etc、普段はTVでしか見たことのない所を観光してまわりました。タワーブリッジをロンドン橋とまちがえて、タクシーに「LONDON BRIDGE PLEASE」と言った方がいいが、何の変哲もない橋につれていかれた人など、この1日だけで数えられないほどのエピソードができました。

24日、いよいよ演奏会。St. Mary教会を会場として、地元の人達と共に、言葉ではなく音楽で通じあうことができました。また今回の旅行の目的の一つが“本場の教会の響きを体験する”ことであり、今回の演奏会が団員一同、初体験であったので、その音響の素晴らしさにド肝をぬかれ全く異なる状況の演奏会で不安はかくせませ



フランス

我々の次なる訪問地はフランス・パリである。海外初体験者の多いグリーンセンターのすぐ近く、サンメリ教会で行われる今回の演奏会は、この演奏旅行の中でも最も規模の大きいものの一つだけに失敗は許されない。しかし何とすばらしい教会なのだろう。石造りの教会の独特の響きは、我々の拙い歌でさえ名演奏に錯覚(?)させてしまう程だ。殊に本場ヨーロッパの教会で宗教曲を歌う感激は、なかなか得がたい収穫だったと思う。

現地の方々の暖かい協力もあって、会場はほぼ満員、良い気分演奏することができた。鳴りやまぬ拍手に学指揮者Mも悪ノリして何度となくアンコールに応えた。(誰かとめろ!)

パリではフリータイムも比較的あったので皆思い思いのパリの休日を楽しんでいたようだ。市内の観光地ではあき足らず、渋谷先生とヴェルサイユまで足をのびた者もいたし、クリニャンクールのノミの市で「ヌードがるた」などを買い、フランス人の失笑をかった者もいた。私自身もパリには格別の思いを寄せていただけに精力的に行動した。とかく名所の多いパリだが、特に早朝、リュクサンブール庭園やリルボンヌを訪ねた。カルチェラタンや、小路をさまよっているうちに、ムーラン・ド・ラ・ギャレットを見つけてKやんと喜んで夕暮れのモンマルトル — の思い出が今でも胸に残る。お目あてだった美術館めぐりも、充分でなかったし、やはりもう一度、パリへ行こうと私は心に秘めている。



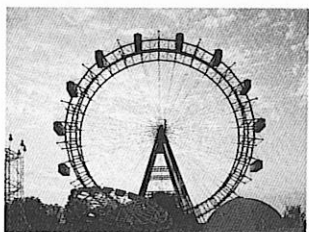
ドイツ

ドイツ最初の都市はベルリンである。ベルリンと言えば、森鷗外を思い出すが、今や欧州改革の中心としてその名が知られている。到着当日にベルリンフィルの演奏会に行った者、本山先生含め約5名。ドイツ演奏旅行は音楽とともに始まった。また、パリのホテルにパスポートを忘れた者、飛行機の中でパスポートを捨てかけた者がいたことも見逃せない(あれにはヒヤヒヤしました)。ベルリンでの演奏会は、マルツァーニ地区のホールで行われ、地区の区長さんが聴きにきて下さった。演奏会の最後はスタンディングオベーションで拍手を下さり、部員にとって忘れられない演奏会となった。第2の演奏会は、シュトゥットガルトである。街の伝統として続いている「教会音楽の夕べ」に出演した。我々の歌うジョスカン・デ・プレのミサが、重厚な石の壁、美しいステンドグラスにはねかえり、聴衆の心に訴えた。ドイツ最後の都市フランクフルト。ここでの演奏会は音楽大学のホールで行われ、ヘッセン州の放送局が収録にきて下さった。また、本山先生ご友人方、地元の合唱団の方々が交流会を開いて下さり、大変楽しい一日となった。ドイツを通して、アンコール曲、地元シュヴァーベン民謡「ムシテン」を歌ったときの聴衆の顔の輝きを忘れることができない。ドイツではビール、ソーセージ、アウトバーン、ベルリンの壁などを期待ラッツ(広場)での日向ぼっこは部員の心を和ませた。もちろんビールなどは期待通りで素晴らしかった。Schön!



スイス

3月2日、冷たい雨の降りコートの襟を立て到着ゲートかかっていった。ああ私のチューリヒ! 君は何故そんなに冷えきった涙で私を濡らすのか。君は本当の人間の優しさを遠い過去に置き去りにしてしまったのか…。それぐらい冷たい雨の降る中、我々はチューリヒを訪れた。チューリヒと言えばスイス最大の商工都市、さぞかし賑やかだろうと思えば、市街地には市電が、チューリヒ湖には白鳥が、遠くにはアルプスの山々が、と非常に落ち着いた街であった。そんなチューリヒでの演奏会は、翌3日、町の中心にあるブレティガー教会で行われた。お客様はさほど多くなかったが、大変熱心に演奏に耳を傾けて下さり、音楽を通じて小さな国際交流ができた気がした。そう言えばこの演奏会、私は下見のためみんなよりひと足先にこの教会に行ったのだが、何故かまだ閉まっていた、中に入ることができなかった。仕方なく、もう薄暗くなった教会の入口の前に座り、1ℓビンのジュースをラッパ飲みしながら教会が開くのを待っていた。教会の前で人々の慈悲を請う哀れな東洋人にも見えたのが、前を通り過ぎていく人々全てが私を同情の眼差しで見ているのである。通り過ぎた後、再び振り返り、私を指して何が言っているカップルもいた。確かにんな目で見なくても…。冷たい雨が私の心に



オーストリア

ザルツブルグ。モーツァルの都。映画『サウンド・オブ・ミュージック』の舞台にもなったこの美しい町が、ヨーロッパでの最後の演奏会の開催地となりました。演奏会当夜、会場に現れた聴衆の数は約20人。ポツリポツリと聴衆が散らばる客席に69人のグリーンメンの歌声が流れ始めました。ステージからは聴衆ひとりひとりの表情や拍手の音までが分かります。初めの2つのステージが終わっても、その表情は心なしか皆厳しく、拍手もまばらです。こうなったらグリーンメンにも日本男児としての意地があります。「20人も2,000人も一緒や。みんな最後まで気を抜くやないで。」先輩の言葉に励まされ再びステージへ。この日最後の、そしてヨーロッパ最後のステージが終わったとき、約20人の聴衆は皆立ち上がり、笑顔と精一杯の力を込めた拍手をステージの私達に送ってくれたのです。「私はオーストリア人として恥ずかしい。こんな素晴らしい合唱団の演奏会に客があれだけしか来なかったなんて。」後で聴衆の一人から聞いたこの言葉は、たとえそれがこの国一流のお世辞であったとしても、私達にとって演奏旅行の最後を飾る最高の賛辞の言葉となりました。翌朝、一行はウィーンへと発ちました。グリーンメンは過ぎ行く古い街並みの中に、作曲中の曲の旋律を口ずさみながら歩くモーツァルトの後姿や、『ドレミの歌』を唄いながら駆け抜けていくマリアと7人の子供達を思い描いたのでした。



ウィーンの遊園地でのことであった。その時、本山先生は、熱く燃えていた。「ゴ、ゴ、コレ、ホンマおもしろいぞ」と部員を顔面蒼白に落し入れた、あの恐怖のたこ足回転しゃれになってへんでマシーンに、実は先生は乗られてないのを、オレは知っている。

打ち上げでの出来事…

「ウチオケ!! 幹事長というものはな…! 飲めや飲めや、オレの酒が飲めへんのか」by 巨(II) その後2人の歩んだ道は、あまりにも厳しく、つらいものであった。



幹事さんらくらく四条河原町・京阪三条前・京阪伏見桃山前お値段手頃

münchen ドイツ料理 & 生ビール



四条本店 宴会予約 受付番号 ☎ (075) 221-3917  
中京区河原町四条上ル一筋目東入

三条店 宴会予約 受付番号 ☎ (075) 771-0119  
京阪三条駅前

桃山店 宴会予約 受付番号 ☎ (075) 622-7400  
京阪伏見桃山・近鉄桃山御陵駅前

伏見は酒の町。  
目にしみる白壁の  
酒蔵が続いています。

伏見稲荷や、  
伏見桃山城などに囲まれて、  
静かに息づく、清和荘。

澄みわたる水が、  
きらめき流れ、  
四季折々にその彩りを  
美しく表現する名庭で、  
心なごむ京の味わいを  
ご賞味なさいませんか？

数寄屋造りと緑の苑で、  
素朴な心のふるさとを  
ご満喫ください。

料亭 清和荘  
旅館

京都市伏見区深草墨染越後屋敷町  
TEL (075) 641-6238・6239

古都の味  
老舗の味を  
ご贈答に

浜佳食品

京都大丸店  
京都高島屋店  
京都近鉄店

TEL 464-3385  
3378

長

藤岡酒造株式会社  
京都市伏見区今町672番地の1

## 第14回同関交歓演奏会

# 1993. 6. 18 (Fri)

### フェスティバルホール

〈連絡先〉 関西学院グリークラブホール 0798-52-6471  
同グリ・ツジケンザブロウ 075-724-6879

## 神戸女学院大学コーラス部

### The 33rd annual Concert

- |   |                                    |
|---|------------------------------------|
| I MESE DU SACRÉ COEUR DE JÉSUS<br>(女声版本邦初演) | III 企画ステージ<br>「Woman～流れゆく時の中で、今…～」 |
| 作曲 C.GOUNOD<br>指揮 西川智子                      | 編曲 中村 健<br>指揮 西川智子                 |
| II 女声合唱曲「永訣の朝」                              | IV 女声合唱とピアノのためのペルソナ<br>西海の恋歌       |
| 作詩 宮沢賢治<br>作曲 鈴木憲夫<br>指揮 宇治田真理子             | 作詩 関根栄一<br>作曲 湯山 昭<br>指揮 西川智子      |

1993. 3. 3 (水) 開場 17:00 閉演 17:30  
尼崎市総合文化センター アルカニックホール

〈連絡先〉 西本恵子 06-632-2244

# 同志社グリークラブ

名譽顧問／遠藤彰  
顧問／澁谷昭彦  
ヴォイストレーナー／大久保昭男

幹事 長内桶貴志  
副幹事 佐野泰弘  
外 事務 木村拓郎  
 三村剛  
 田村常喜  
 前田勝規  
 川崎武史  
 朝間智昭  
 打田俊明  
 辻健三郎  
 人見幸朋  
 松田寅  
 坂野友紀  
 勝田恒次  
 産賀伸一  
 川西裕之  
 周藤善彦  
 加藤光司  
 岩本史郎  
 伊藤康治  
 小寺武弘

演奏 旅行 林 克巳  
サブ 竹内 秀樹  
 吉武 晃  
 鐵見 太郎  
 近藤 博和  
 土井 邦康  
 池田 保則  
 谷本 啓  
 森 俊樹  
 荒川 剛  
 佐々木 道哉  
 岩佐 圭記  
 白川 行宏

学生指揮者 村上哲夫  
学生副指揮者 福田研二  
Top - Part - Leader 播磨剛  
サブ 岡勇蔵  
Sec - Part - Leader 小林啓崇  
サブ 南條和正  
Bari - Part - Leader 神前八尋  
サブ 八尋秋彦  
Bass - Part - Leader 田中佳之  
サブ 市之瀬崇

OB担当サブ  
文連常任委員  
メサイア実行委員

## TOP TENOR

播磨剛 (法4) 東大津  
松尾敏之 (法4) 佐世保南  
福田研二 (工3) 桐蔭  
岡勇蔵 (商3) 桐蔭  
川島伸規 (商2) 浪速  
梶原亮 (紳1) 神戸  
角由久 (商1) 向陽

林 克巳 (文4) 山城  
村上哲夫 (法4) 同志社香里  
伊藤豪史 (商3) 藤島  
山田憲成 (経3) 名大附属  
小林武弘 (工2) 龍野  
久堀太士 (経1) 日高  
冨田尚 (経1) 高松第一

川崎武史 (経4) 長尾  
朝間智昭 (商3) 南山  
三村剛 (法3) 高槻  
東光彦 (商2) 函館ラ・サール  
森俊樹 (文2) 金岡  
桑添泰幸 (商1) 鳳

## SECOND TENOR

小林啓 (商4) 洛星  
加藤善彦 (工4) 岡崎北  
周藤真 (法4) 同志社国際  
國嵩康則 (工3) 北千里  
南條崇 (工3) 今治西  
川西裕之 (商2) 関西大倉  
巨幸洋 (工2) 県立伊丹  
園田誠 (工1) 千里

朝岡基雄 (経4) 岡崎  
勝田恒次 (法4) 大津  
田村常喜 (紳4) 名古屋学院  
森下貴夫 (法3) 貿易学院  
人見幸朋 (法2) 西乙訓  
小嶋徹 (法2) 岡崎  
吉武晃 (工2) 同志社  
土井英樹 (文1) 同志社  
高津智宏 (工1) 愛知

井上建司 (文4) 阪南大学高  
小川剛 (法4) 洛北  
鹿島啓 (文3) 新川  
村田知彦 (工3) 御影  
岩佐圭記 (法2) 堀川  
坂野友紀 (法2) 沼津東  
小糠純 (文1) 松江北

## BARITON

神前和正 (商4) 泉陽  
小倉嘉夫 (文4) 池田  
佐々木道哉 (法3) 豊岡  
辻健三郎 (経3) 岐阜  
荒川剛 (法2) 同志社香里  
小寺康治 (商2) 松山東  
吉武晃 (工2) 福岡県立京都  
土井英樹 (文1) 日出学園  
高津智宏 (工1) 愛知

木村拓郎 (法4) 北嵯峨  
内桶貴志 (経4) 浦和市立  
竹内秀樹 (経3) 大分上野丘  
八尋秋彦 (法3) 洛北  
土井邦康 (経2) 東海大仰星  
小嶋徹 (法2) 岡崎  
渡辺康人 (文2) 同志社  
福栄貴史 (工1) 三島  
上野大介 (経1) 春日丘

前田勝規 (経4) 佐賀西  
近藤博和 (工3) 明和  
谷本啓 (商3) 新見  
山口弘 (工3) 四条畷  
長谷川宏志 (法2) 総社南  
久保田義臣 (文2) 九州国際大附属  
千神敏正 (文1) 同志社  
福原敦士 (法1) 貿易学院  
宇都康之 (商1) 新南陽

## BASS

田中佳之 (商4) 乙訓  
鐵見太郎 (工4) 同志社香里  
岩本光司 (工3) 春日丘  
佐野泰弘 (法3) 春日丘  
吉田泰典 (法3) 市立銚子  
白川行宏 (経2) 国府  
杉生元 (法1) 同志社国際

池田保則 (法4) 東大津  
浅海誠 (法3) 天王寺  
三原卓 (工3) 京教大附属  
産賀伸一 (法3) 落合  
迫謙祐 (法2) 北野  
平山直之 (経1) 春日丘  
浦川和弘 (経1) 小野

中野泰秀 (商4) 小松  
市之瀬崇 (経3) 名古屋北  
奥村建 (工3) 平塚江南  
打田俊明 (文3) 久居  
佐藤嘉和 (文2) 東農大二  
佐藤利宏 (工1) 同志社国際  
山田正樹 (工1) 同志社

# 第88回同志社グリークラブ定期演奏会 OB協賛芳名録

今回の定期演奏会の開催にあたり、下記の先輩方の協賛を頂きました。誌上ではございますが、この場にて厚く御礼申し上げます。

## 同志社グリークラブ

大正15年卒	生田 定一	新矢 起大	42年卒	白井 孝	60年卒	森 知史
	津下統一郎	高渕 一之		館 和道	61年卒	尾池 智治
昭和3年卒	油谷 栄	森田 秀夫		山根 礪		福原 伸司
7年卒	井田 褒司	田坂 陽治	35年卒	湯浅 康平	63年卒	青木 陽介
9年卒	今西善次郎	田中 忠男		遠藤 好俊		梅田 隆司
10年卒	笹森 修	早嶋 英治	43年卒	川上 榮		辻本林一郎
12年卒	藤井 清	松村 時男		深木善治郎		中西 健
15年卒	柳原 一男	天野 守信	36年卒	山根 廣		桃井 茂樹
17年卒	鶴原 太郎	川添 正		松本 公郎	44年卒	八幡 正己
19年卒	柏原 信夫	寸田 達		木戸 敏博	47年卒	瀬戸 正之
21年卒	野澤 盛次	田村 量基		田窪 徹		田中 祐之
23年卒	池田 秀隆	竹田 守孝	48年卒	平井 雅則	2年卒	新井 正
24年卒	豊田 俊一	中村豊太郎	49年卒	金子 悦文		小川 和博
	長島 俊司	村田 由高	50年卒	大崎 保則		岡村 健二
25年卒	田中 實	横田 義		松村 俊明		栗田 陽一
26年卒	富永 光雄	河野賢太郎	51年卒	薄井 篤		西田 士朗
27年卒	福永 嘉彦	辰巳 孝吉	37年卒	小林 郁夫		廣島 映一
	土肥 通夫	田中 惺		田野 耕樹	3年卒	川口 晃司
	中井 正和	土居 康雄		伏村 淳二		黒沼 貴博
	松本 勝男	藤岡 一似	52年卒	小林 茂		日笠 喜元
28年卒	斉藤 勲	三宅 健司		高谷 博次		島田 直明
	妹尾 光郎	田村 康浩	38年卒	山下 裕司		竹内 正
	西村 讓治	林田 慎也		徳山 康彦	53年卒	田村 昌宏
	正木 康雄	山内 康次		大西 育生	54年卒	松田 仁
29年卒	今川 清	石田 文博	39年卒	左壽 俊彦		宮崎雄一郎
	鈴木 健三	岩木 六馬		中山 篤		瀬古 裕一
	野村 秀治	後藤 健夫		樋上 雅人	4年卒	岸間 昭一
	吉川悟一郎	溝口 久夫		藤井 俊之		西浦 泰郎
30年卒	門田 耕一	高田 一三		矢ヶ崎 一之		山田 学
31年卒	今藤 勇	渋谷 庸一	40年卒	梶浦 義人	55年卒	中井 規之
	佐々木幹郎	土生 邦彦		中野 宏		吉野 暢人
	澁谷 昭彦	大原 康弘	41年卒	山下 秀幸		風隼 武博
	橋 守	木下 利彦		落合 均	56年卒	坂西 成和
	野岡 明忠	北村 徹男		楠木 潔		佐々木 博
	野村 忠	小室 泰司		多々 清爾		朝日 健次
	平野 稔	橋詰 崇史	42年卒	東原 幸生	57年卒	小西 拓也
32年卒	大島 昌夫	池田 研一		吉田 宜生	57年卒	永島 健一
	森 泰一	岩谷 誠之		松井 謙之	58年卒	
33年卒	辻 義彦	栗山 昭男		鉾山 琢磨	59年卒	
	南迫 卓一	近藤 恭司		諸江 修		(敬称略)
34年卒	大友 慶介	沢井 浩一	60年卒	河村 一良		

## 同志社グリークラブ

# 第88回卒業生のための送別演奏会

1993年2月13日 PM5:30開演

同志社大学会館ホール (入場無料)



## 編集後記



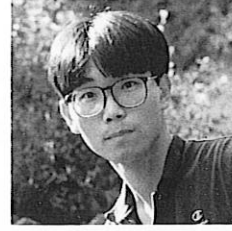
朝間 智昭

ついに編集後記となってしまったか、なぜもっとスムーズにできなかったのかと後悔している。この1年間は色々ありました、何とかやってこれました。お世話になったみなさん、本当にありがとうございました。



打田 俊明

外政という役職を通して本当に多くの方々と出会えたことを嬉しく思います。皆さん、ありがとう。



辻 健三郎

みんなと一緒に作ったチラシ、パンフ、演奏会。また1つ大切な宝物ができました。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、原稿を快く執筆して下さいました諸先生方、広告主の皆様、双林印刷の山田様、その他当演奏会に御尽力下さいました方々、そして、本日御来場戴きましたお客様に厚くお礼申し上げます。

今後とも、同志社グリークラブを宜しくお願い申し上げます。

1992年12月 同志社グリークラブ  
マネージャー 一同

クリスマスは2人のために…。

# 全同志社メサイア演奏会

# Messiah

指揮 糴山和明

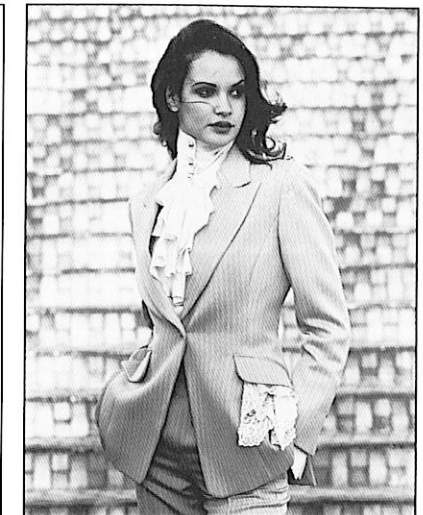
1992年12月25日(火) 京都会館第一ホール

開場 5:30 開演 6:00

〈お問い合わせ〉 同志社グリークラブ、同志社交響楽団BOX 075(251)3185(呼)・075(451)9871(呼)



Genny



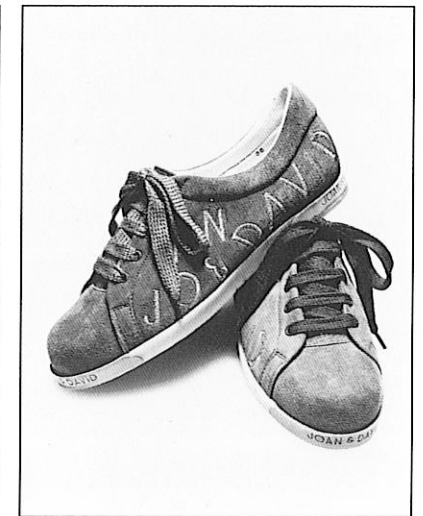
byblos



ALMA



S.P.A.



JOAN & DAVID

### 三崎商事グループ

株式会社サラアビート  
株式会社東京サンコロール  
株式会社大阪サンコロール

ジェニージャパン株式会社  
ビプロスジャパン株式会社  
株式会社ミサキインターナショナル

株式会社源内  
株式会社蓉企画  
三崎商事株式会社

三崎商事株式会社

東京/東京都港区南青山2-5-17 ポーラ青山ビル7F Tel.03-3403-4371 大阪/大阪市中央区南船場4-2-4 日本生命御堂筋ビル5F Tel.06-251-1171